参 考 資 料

参　考　資　料
目　次

佐用町災害復興計画検討委員会について …… 2
① 委員会名称 …… 2
② 委員構成 …… 2
③ 開催状況 …… 2
④ 条例 …… 3

これまでの取り組み …… 4

アンケート調査原票 …… 6

佐用町災害復興計画にかかるアンケート調査結果報告書 ……13
住民アンケート調査の概要 ……14
アンケート結果 ……15
回答者の属性 ……15
災害の被害や避難に関すること ……17
水害に関する事前情報 ……26
今回の水害時における地域の状況 ……28
行政（役場など）に求めること ……32
あなたができること、地域でできること ……35
水害を受けて考えること、伝えること、復興のイメージなど ……37
アンケートの考察 ……40
アンケートへの自由意見 ……46

台風第９号災害及び今後の地防災など「意見交換会」 ……54

パブリックコメントの実施 ……69

佐用町災害復興計画検討委員会について

１．委員会について

① 委員会名称　　佐用町災害復興計画検討委員会

② 委員構成

（委員長）	関西学院大学総合政策学部教授	室﨑　益輝
（副委員長）	大阪大学大学院准教授	渥美　公秀
（副委員長）	佐用町自治会連合会長（三日月連合自治会長）	坂口　　榮
	佐用町議会議長	山田　弘治
	佐用町議会台風９号災害に関する調査特別委員会会長	矢内　作夫
	佐用町自治会連合副会長（佐用連合自治会長）	木村　政照
	佐用町自治会連合副会長（上月連合自治会長）	梶原　義正
	佐用町自治会連合副会長（南光連合自治会長）	嶋本　昭彦
	久崎地区自治会長	三宅　賢三
	佐用町商工会長	谷本　　学
	佐用町農業委員会長	祖開　正平
	上月小学校長	平田　秀三
	佐用町消防団長	松田　芳夫
	西播磨県民局長	小畠　　寛
	ＮＨＫ神戸放送局長	森本　和憲

③　開催状況

	開催日	委員会概要
第１回	平成２１年１１月　５日	復興計画策定の進め方について
第２回	平成２１年１２月２４日	災害復興計画の基本方針、目標について
第３回	平成２２年　２月　７日	災害復興計画（骨子）について
第４回	平成２２年　３月　１日	災害復興計画（素案）について
第５回	平成２２年　３月３０日	パブリックコメントの実施結果、災害復興計画の策定



委員会の状況

④　佐用町災害復興計画検討委員会　条例

佐用町災害復興計画検討委員会条例　　佐用町条例第３２号

（趣旨）

第１条　この条例は、平成 21 年台風第 9 号の豪雨により、人的被害をはじめ、各所に甚大な被害を受け、想像を絶する未曾有の大惨事となったことに際し、この災害からの復興と災害に強く町民が安心して暮らせるまちを創造するため、災害復興計画の策定のための委員会の設置について、必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の４第３項の規定に基づき、佐用町災害復興計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第３条　委員会は、災害からの復興と災害に強く町民が安心して暮らせるまちの創造に関する計画策定について、必要な事項を検討する。

（組織、委員等）

第４条　委員会は、委員１５人以内で組織する。

２　委員は、次に掲げる者から、町長が委嘱する。

（１）学識経験を有する者

（２）町議会議員

（３）町の行政委員会の委員

（４）公共的団体の役員

（５）県の行政機関の職員

（６）その他町長が必要と認める者

３　委員の任期は、佐用町災害復興計画策定の期間とする。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

３　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　委員会は、委員長が召集する。

２　委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

４　委員長は、第４条及び第５条の規定にかかわらず、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

（事務局）

第７条　委員会の事務局は、佐用町災害復興対策室とする。

（その他）

第８条　この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、公布の日から施行する。

（会議の招集に関する特例）

２　この条例の施行の日以降最初に開かれる委員会は、第６条第１項の規定にかかわらず、町長が招集する。

（佐用町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正）

３　佐用町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（平成 17 年佐用町条例第 37 号）の一部を次のように改正する。

別表の国民保護協議会の項の次の１項を加える。

佐用町災害復興計画検討委員会	委　　員	日　額	5,400 円
	学識経験者	日　額	12,400 円

これまでの取り組み

これまでの取り組み

平成２１年度

第１回検討委員会（11/5）

・台風第９号災害による佐用町の被災状況確認
・各委員の立場から、災害や佐用町の復興に関することなどについて意見交換
　→　計画の検討にあたり、地域の意見やニーズについて意見交換会や住民アンケートを実施して確認

【地域づくり協議会単位での意見交換会の実施（11/20～12/15）】
【住民アンケート調査の実施（11/20 発送、11/30 投函〆切）】

第２回検討委員会（12/24）

＜協議＞佐用町災害復興計画の基本理念、計画骨子について
（意見交換会、意向調査、住民アンケートから地域の意向を踏まえて）

プロジェクトチーム(町)会議(1/14)　→復興計画イメージ、各事業計画等について協議

第３回検討委員会（2/7）

＜協議＞　佐用町災害復興計画の基本方針について
佐用町災害復興計画（イメージ）について

基本方針等に基づき、各事業計画の記載について検討・調整

第４回検討委員会（3/1）

＜協議＞　佐用町災害復興計画（素案）について
パブリックコメント（意見募集）の実施について

佐用町災害復興計画（素案）について、パブリックコメント（意見募集）を実施
⇨　質問や意見を踏まえ、計画（素案）を修正及び考え方について回答を作成

第５回検討委員会（3/30）

＜協議＞　パブリックコメント（意見募集）の結果について
佐用町災害復興計画の策定について

アンケート調査原票

佐用町豪雨災害に関する意識アンケート

あなたの被害状況についてお聞きします。

問１．あなたは平成 21 年 8 月の台風 9 号で被害を受けましたか。あてはまるものに○をご記入下さい。

１．被害を受けた	２．被害を受けなかった

問２．問１．で１と回答された方にお聞きします。その時の状況、被害にあてはまるもの全てに○をご記入下さい。

１．自宅の前の道路が水に浸かった	２．自宅の床よりは低いが、敷地に水が浸かった
３．自宅の１階の床まで水に浸かった	４．自宅の２階の床まで水に浸かった
５．自分や家族の田畑が水に浸かった	６．近くの崖や山が崩れた
７．崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた	８．水害により怪我など人的被害を受けた
９．その他の受けた被害	

問３．あなたは平成 21 年 8 月の台風 9 号の時に避難をしましたか。あてはまるものに○をご記入下さい。

１．避難所に避難した	２．避難所に避難しなかった

問４．問３で１と回答された方にお聞きします。以下の事項をご記入下さい。

１．避難先：	２．自宅からの距離：　　m
３．避難開始時刻：	４．防災無線：　聞いた　・　聞いていない
５．避難しようと思ったきっかけ	
６．避難時の状況： （避難時の水深等）	７．一緒に避難した人

問５．問３で２と回答された方にお聞きします。避難所に避難しなかった理由としてあてはまるもの全てに○をご記入下さい。

１．避難所が分からなかった	２．避難所までの経路が分からなかった
３．避難所までの経路が危険だから	４．助けがないと避難所にいけないから
５．避難しないと決めていた （過去に避難しようとして恐い思いをした等）	６．避難するタイミングがわからなかった （避難勧告を聞いていなかった）
７．避難場所がない	８．その他（２階に避難した等）

問６．あなたは過去の水害の時に避難をしましたか。あてはまるものに○をご記入下さい。

１．避難所に避難した （最近はいつ頃：　　）	２．避難所に避難しなかった

水害に対する事前情報についてお聞きします。

問７．佐用町では浸水が予想される区域を示すものとして「洪水ハザードマップ（大規模洪水被害想定図）」を公表していますが、あなたはこの地図を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるものに１つ○印をご記入下さい。

１．洪水ハザードマップを持っている	２．洪水ハザードマップを持っていないが、見たり、聞いたりしたことがある
３．洪水ハザードマップを見たことも聞いたこともない	４．その他

問８．水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に発令される情報のうち、あなたが知っているもの全てに○印をご記入下さい。

１．大雨注意報や大雨警報	２．洪水予報
３．水防警報	４．避難勧告や避難指示
５．土砂災害警戒情報	６．警報サイレン
７．その他（　　）	

今回の水害時の地域の状況についてお聞きします。

問９．今回の水害時ではどのような人や組織が主導的な役割を果たしていましたか。あなたが知っているもの全てに○印をご記入下さい。

１．自治会長	２．水防団員（消防団員）
３．自治会の防災担当役員	４．民生児童委員
５．民間事業所や企業組合・団体の人など	６．主導的な役割を果たしている人や組織はいなかった
７．その他	

問 10．以下の情報伝達について「良かった」～「改善すべき」のいずれかに○をご記入下さい。

項　目	良かった	やや良かった	どちらでもない	やや改善すべき	改善すべき
１．防災行政無線による情報伝達					
２．ケーブルテレビでの情報伝達					
３．パソコンやメールによる情報伝達					
４．自治会や町内会の防災担当役員による情報伝達					
５．その他					

問 11. 以下の避難・救助方法などについて「良かった」～「改善すべき」のいずれかに○をご記入下さい。

項　目	良かった	やや良かった	どちらでもない	やや改善すべき	改善すべき
1．各自が情報を聞いて自主的に避難できた					
2．介護が必要な方や高齢者などを把握していたため、逃げ遅れることなく避難できた					
3．自治会や自主防災組織を中心とした避難ができた					
4．救助用ボートなどの避難用品が十分に揃っており、取り残された方の救助がスムーズにできた					
5．排水ポンプによる効果的な排水ができた					
6．その他					

問 12. 避難所の対応について「良かった」～「改善すべき」のいずれかに○をご記入下さい。

項　目	良かった	やや良かった	どちらでもない	やや改善すべき	改善すべき
1．避難所の規模（収容力）					
2．トイレの数、衛生状況、障害者用トイレの設置など					
3．トイレの衛生状況					
4．障害者用トイレの設置など					
5．毛布や粉ミルクなどの生活物資・用具の質					
6．毛布や粉ミルクなどの生活物資・用具の量					
7．食料の量					
8．食料の質					
9．食料の配布方法					
10．避難所の職員の配置人数と対応					
11．その他					

行政に求めることについてお聞きします。

問 13. 洪水から命や財産を守るため、あなたは町に対してどのような取り組みみを望まれますか。重視して進めるべきと考えるもの全てに○をご記入下さい。

1．消防団や自主防災組織等の育成強化	2．洪水発生時の対処方法を学ぶ定期的訓練
3．洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	4．河川の水位や雨量など、危険を知らせてくれる情報の提供
5．学校等での防災教育	6．避難路や避難拠点施設などの整備
7．雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	8．洪水が起こりにくくするための河川整備
9．その他	

問 14. 福祉対策として必要と考えているもの全てに○をご記入下さい。

1．被災者の心のケア	2．乳幼児支援等
3．高齢者・障害者の支援等	4．医師・保健師などによる健康対策
5．その他	

問 15. 下記のハード対策（構造物などの施設整備）の中から重要と考える施策を 3 つ選び○印をご記入下さい。

施　策　項　目	重要
1．防災行政無線など情報伝達手段の確保	
2．避難所や避難路の整備	
3．森林などの整備	
4．河川改修の実施や排水ポンプの整備	
5．老朽ため池等の整備	
6．危険箇所（土砂災害）の災害防止事業の実施	
7．緊急輸送道路の整備	
8．その他	

問 16. 下記ソフト対策（情報や広報などの整備）の中から重要と考える施策を 3 つ選び○印をご記入下さい。

施　策　項　目	重要
1．地域で防災についての話し合いを増やす	
2．町や地域で防災訓練を実施	
3．地域で防災マップを作る	
4．自主防災組織のリーダーを育成する	
5．ボランティアの充実	
6．心のケアなど被災者の健康管理	
7．被災者の生活相談や支援など	
8．その他	

あなたができること、地域でできることについてお聞きします。

問 17. 水害や土砂災害の被害を少なくするため、あなたはどのようなことに留意する必要があると思いますか。あてはまるもの全てに○印をご記入下さい。

1．災害時の行動について家族で話し合う	2．避難所までの危険箇所をチェックする
3．防災座談会や懇談会、防災訓練などへ参加する	4．気象情報や川の水位などの情報に普段から注意する
5．防災機材を用意する	6．食料や防災グッズなどの備蓄を行う
7．その他	

問 18. 水害や土砂災害の被害を少なくするため、地域でどのようなことに留意する必要があると思いますか。あてはまるもの全てに○印をご記入下さい。

1．水害がおきた時の対策を話し合う	2．防災座談会や懇談会、地域での防災訓練を行う
3．地域内の危険箇所を普段から巡回・点検する	4．防災機材の整備・点検を定期的に行う
5．介護が必要な方や高齢者などを把握しておく	6．ボランティアとの連携の仕組みを作る
7．まちづくりを見直す	8．その他

問 19. このたびの災害を受け、今後のために伝えていかなければならないことや、佐用町が元気に復興していくために行うべきことがあれば、ご自由にお書き下さい。

問 20. 平成 21 年 8 月の台風 9 号来襲時にあなたの住んでいた地区を下記から選び〇印をご記入ください。

１．佐用地区	２．長谷地区	３．平福地区	４．石井地区
５．海内地区	６．江川地区	７．幕山地区	８．上月地区
９．久崎地区	１０．中安地区	１１．徳久地区	１２．三河地区
１３．三日月地区			

問 21. あなたの性別に〇印をご記入下さい。

１．男	２．女

問 22. あなたの年代に〇印をご記入下さい。

１．20 歳未満	２．20～30 歳未満
３．30～40 歳未満	４．40～50 歳未満
５．50～60 歳未満	６．60 歳以上

問 23. あなたの職業に〇印をご記入下さい。

１．自営業	２．会社員
３．公務員	４．無職
５．学生	６．その他

問 24. あなたは佐用町に住み続けたいと思っていますか。あてはまるものに〇印を記入し、その理由をお書き下さい。

１．住み続けたい （理 由）	２．町内で移りたい （理 由）
３．町外に移りたい （理 由）	

ありがとうございました。

佐用町災害復興計画にかかる
アンケート調査結果報告書

住民アンケート調査の概要

今回の災害での状況や安全あんしんのまちづくりについて感じている意見、要望などを把握し、佐用町災害復興計画づくりに反映するため、住民アンケート調査を実施しました。

住民アンケート調査の対象者は 15 歳以上の町民 1,000 人を無作為に抽出し、郵送調査で実施しました。

実施時期

配布開始：平成 21 年 11 月 19 日（木）
回収期限：平成 21 年 11 月 30 日（月）

調査対象者

対象者：町在住の１５歳以上の方（無作為抽出＋加重配分）
対象数：1,000 名

〈抽出の考え方〉
70%は 15 歳以上の町民から無作為抽出し、
20%は人家など特に大きな被害を受けている集落から抽出、
１０%は特に意見を求めたい女性層及び若者層（１５～３０歳）より抽出した。

回収状況

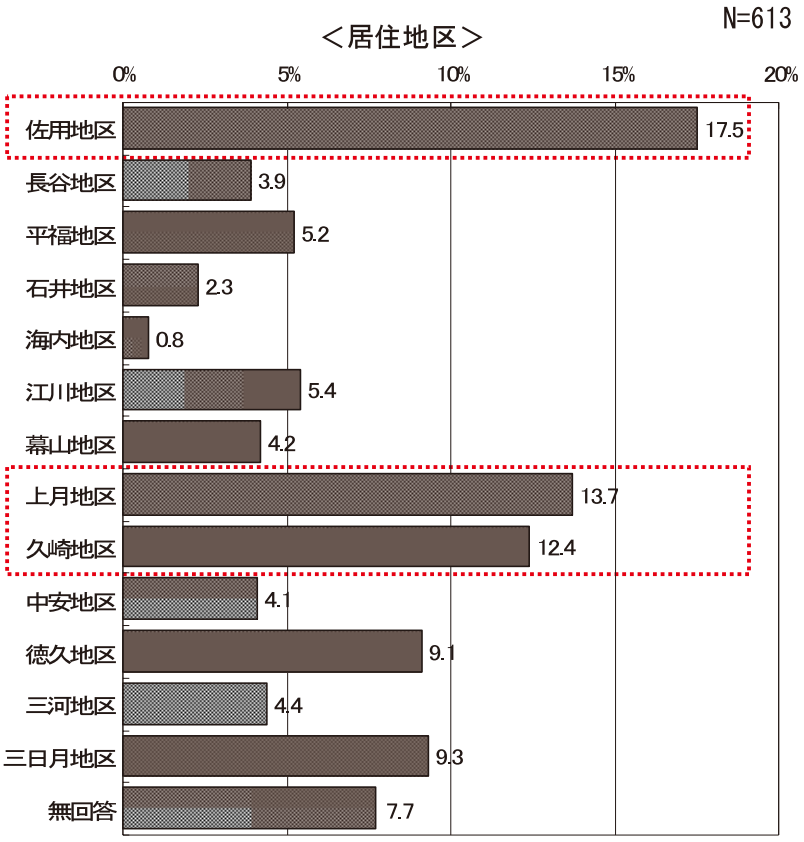
回　収　数：613
回　収　率：61.3%

アンケート結果

回答者の属性

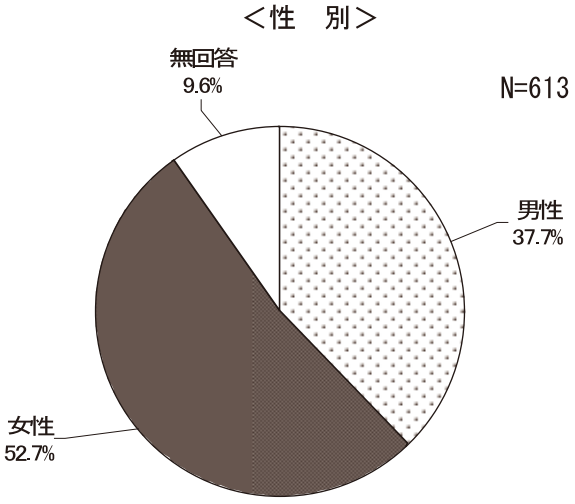
（１）居住地区

８月の水害時、回答者が住んでいた地区は「佐用地区」が 17.5%で最も多く、次いで「上月地区」13.7%、「久崎地区」12.4%となっており、概ね地域別人口に比例した結果となっています。



（２）性別

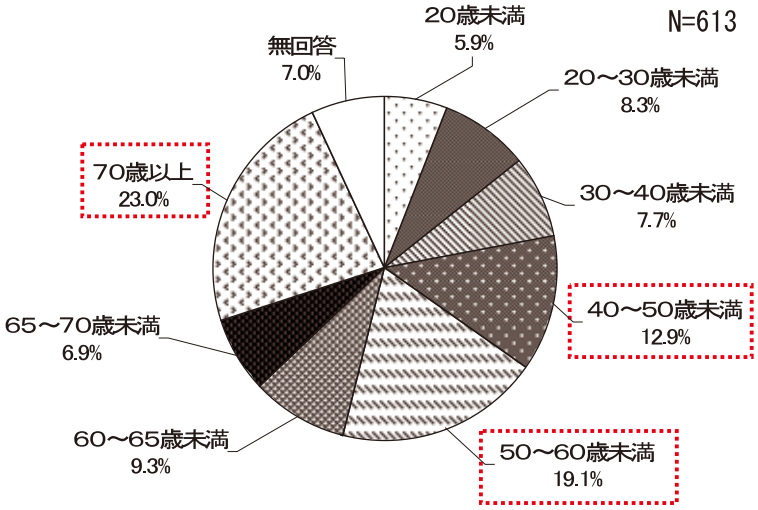
性別は「女性」が 52.7%、「男性」が 37.7%で女性の回答率が高くなっています。



（3）年代

年代は「70 歳以上」が 23.0%と最も多く、次いで「50～60 歳未満」19.1%、「40～50 歳未満」12.9%となっています。

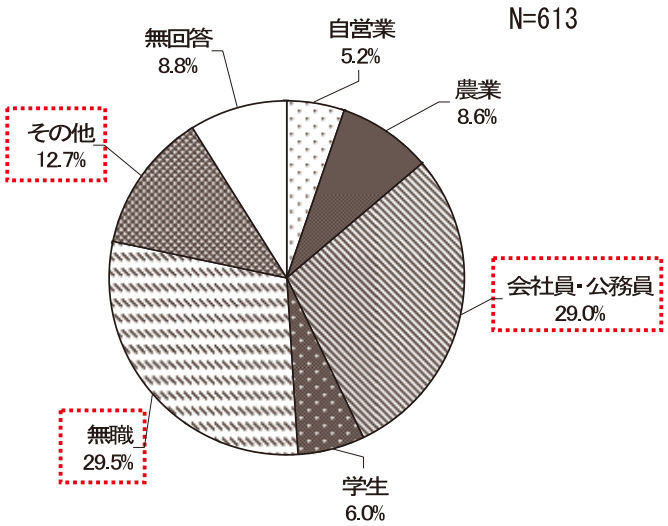
＜年　代＞



（4）職業

職業は「無職」が 29.5%と最も多く、次いで「会社員・公務員」29.0%、「その他」12.7%となっています。

＜職　業＞

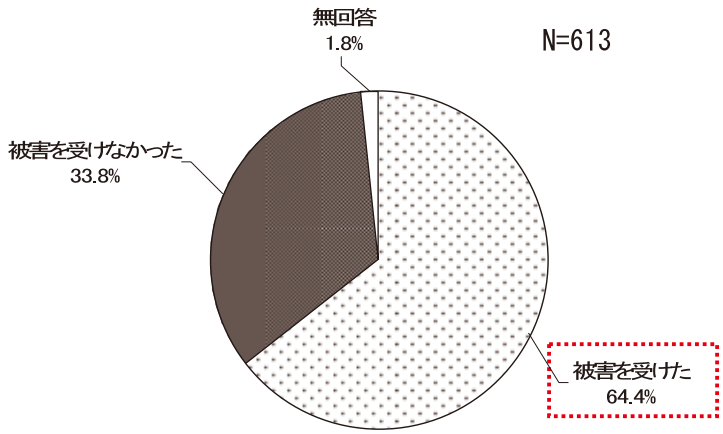


災害の被害や避難に関すること

問１．あなたは８月の水害で被害を受けましたか。あてはまるものに○印をご記入ください。

８月の水害での被害の有無は、「被害を受けた」が 64.4%、「被害を受けなかった」が 33.8%となっており、被害を受けた方が約６割と多くなっています。

＜被害の有無＞



問２．問１．で１（被害を受けた）と回答されたかたにお聞きします。その時の状況や被害について、あてはまるもの全てに○印をご記入ください。

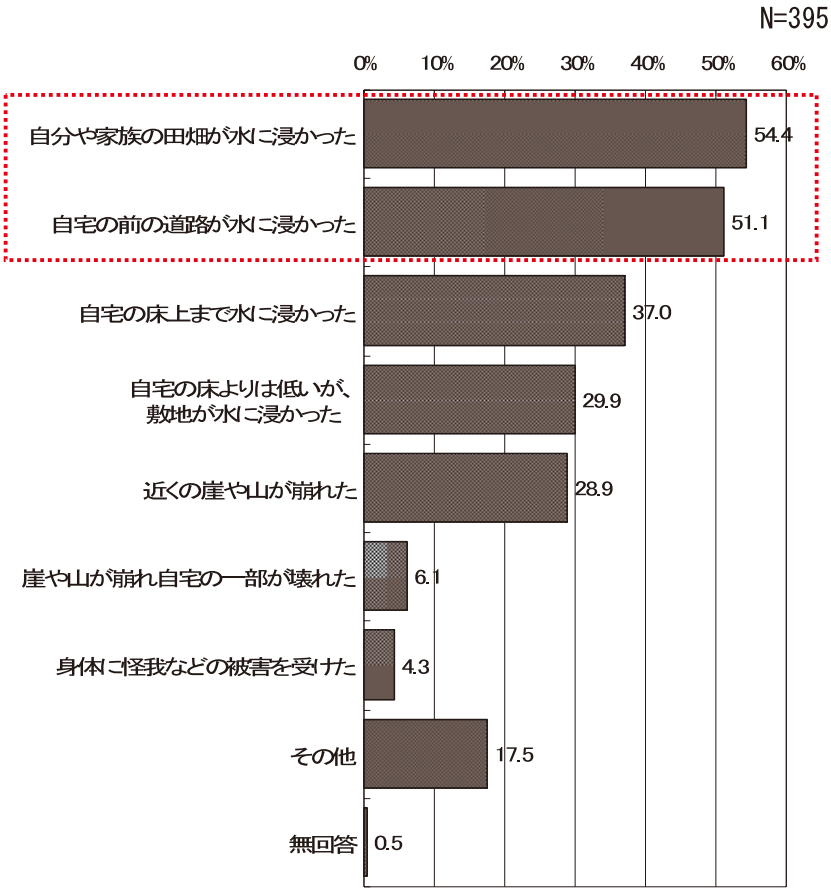
水害の状況や被害は、「自分や家族の田畑が水に浸かった」54.4%、「自宅の前の道路が水に浸かった」51.1%が突出し、次いで「自宅の床上まで水に浸かった」37.0%、「自宅の床よりは低いが、敷地が水に浸かった」29.9%、「近くの崖や山が崩れた」28.9%となっています。

一方、「崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた」は 6.1%、「身体に怪我などの被害を受けた」は 4.3%と少なくなっています。

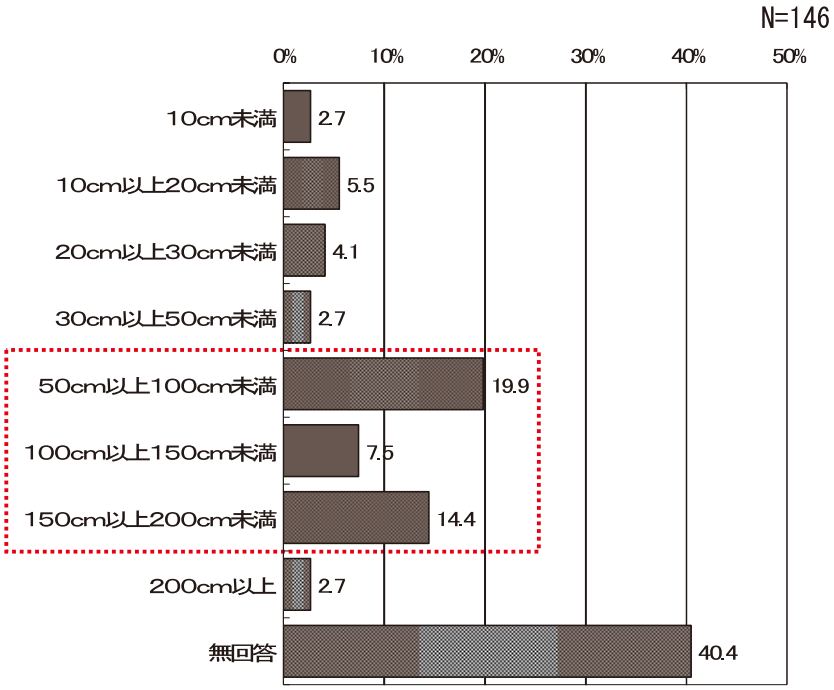
その他の回答としては、車や車庫、倉庫の浸水や田畑への土砂流入などの意見が多く見られます。

また、「自宅の床上まで水に浸かった」と回答した方について浸水の高さを聞いたところ「50cm 以上 100cm 未満」が 19.9 %で最も多く、次いで「150cm 以上 200cm 未満」14.4%、「100cm 以上 150cm 未満」7.5%となっており、平均すると 90.8cm となっています。

＜水害の状況や被害＞



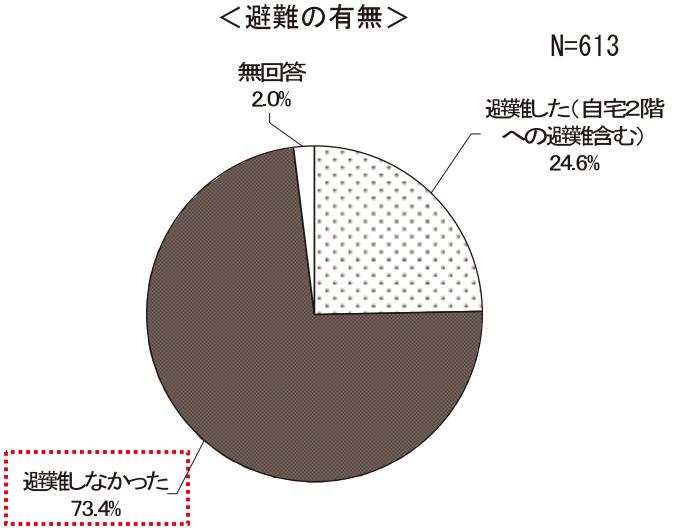
＜浸水の高さ＞



問３．あなたは８月の水害時に避難をしましたか。あてはまるものに○印をご記入ください。

避難状況は、「避難しなかった」が 73.4%、「避難した（自宅２階への避難含む）」が 24.6%と避難しなかった人が約７割と多くなっています。

＜避難の有無＞

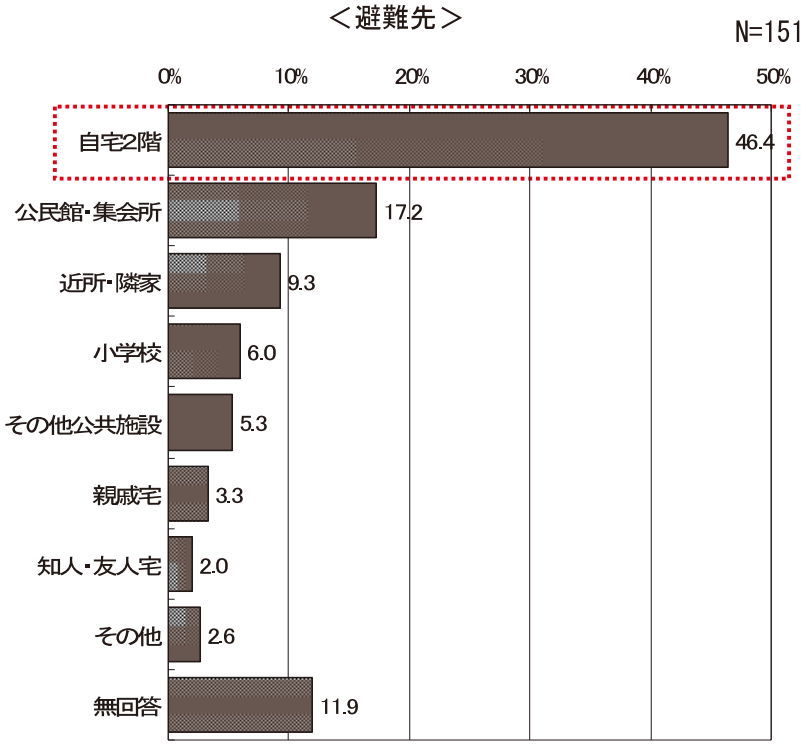


問４．問３で１（避難した）と回答されたかたにお聞きします。以下の事項をご記入ください。

問４－1．避難先

避難した方の避難先は、「自宅２階」が 46.4%で最も多く突出しています。次いで「公民館・集会所」17.2%、「近所・隣家」9.3%となっています。

＜避難先＞

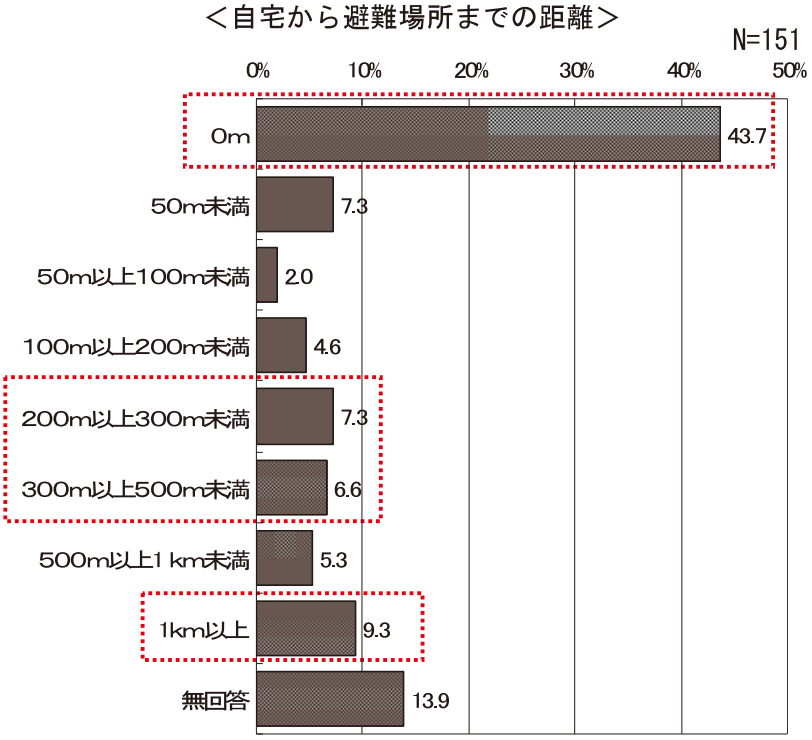


問４－２．自宅から避難場所までの距離

避難した方の自宅から避難場所までの距離は、自宅２階への避難が多かったことから、「0m」が 43.7%で最も多くなっています。

自宅以外へ避難された方の自宅から避難場所までの距離は、「1 ㎞以上」が 9.3%で最も多く、次いで「200m 以上 300m 未満」7.3%、「300m 以上 500m 未満」が 6.6%となっており、避難された方の避難距離の平均は約 300m となっています。

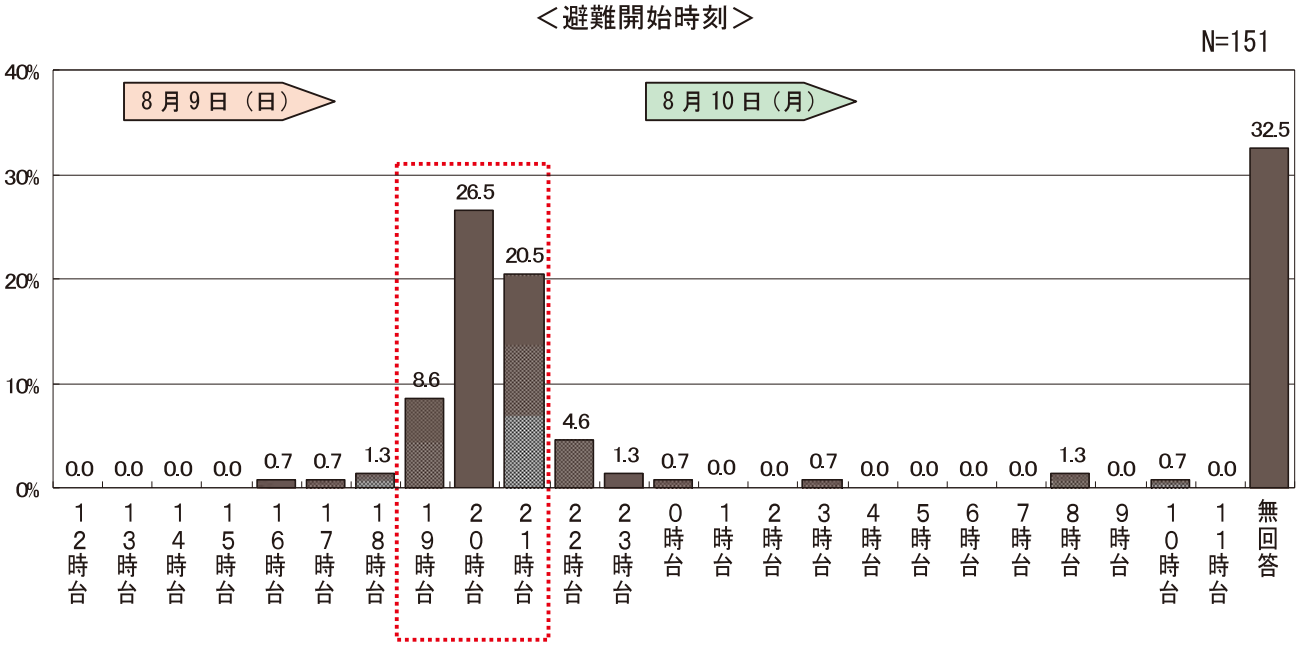
＜自宅から避難場所までの距離＞



問４－３．避難開始時刻

避難した方の避難開始時刻は、８月９日「20 時台」が 26.5%で最も多く、次いで「21 時台」20.5%、「19 時台」8.6%となっており、19 時～21 時の夜間に避難した方が多くなっています。

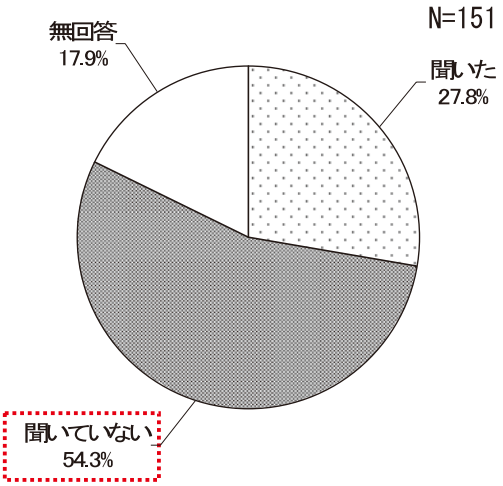
＜避難開始時刻＞



問４−4．防災行政無線の受信状況

避難した方の防災行政無線の受信状況は、「聞いていない」が 54.3%、「聞いた」が 27.8%となっており、防災行政無線を聞いていない方が約５割となっています。

＜防災行政無線の聴取状況＞





佐用町防災無線端末器

問４−5．避難しようと思ったきっかけ

避難所などへ避難しようとした方は、「家屋に浸水が始まった、畳が浮きはじめたので避難」が 59.1%で突出しており、次いで「自治会や消防団などの呼びかけで避難」が 19.2%となっています。

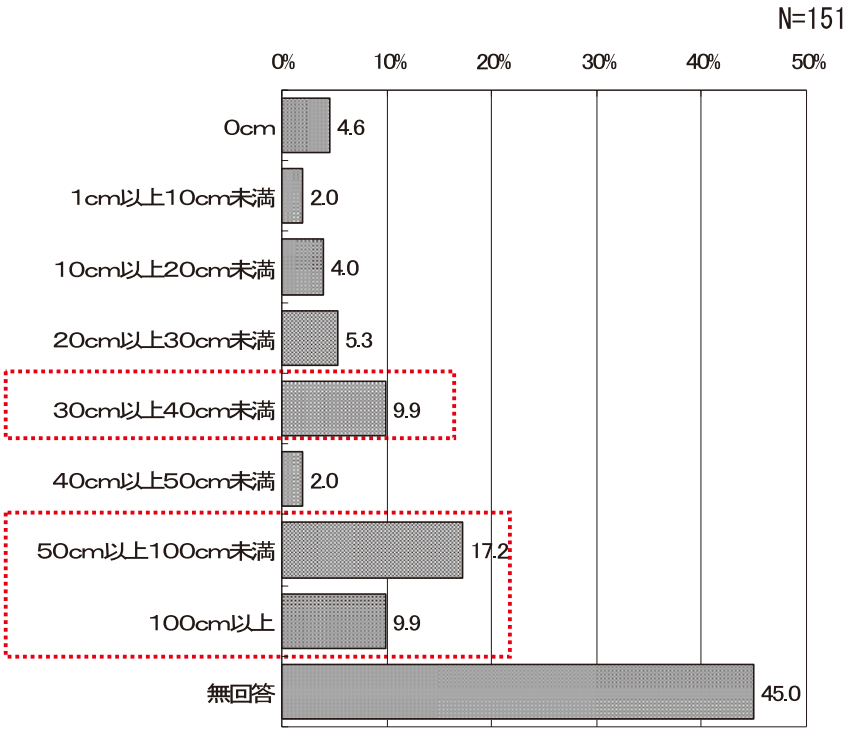
しかし河川の増水が早く、すでに浸水したために避難所などへの避難が困難となり、自宅２階などへ避難せざるを得なかった方も多く見られます。また、病人を抱えている方は自宅２階への避難をせざるを得なかったという意見も見られます。

■家屋に浸水が始まった、畳が浮きはじめたので避難　：59.1%
■自治会や消防団などの呼びかけで避難：　19.2%
■危険を感じて避難：　14.2%
■H16 年水害の経験により避難：　2.5%
■外出先から帰ることができず避難：　2.5%
■その他：　2.5%

問４−6．避難時の水深

避難した人の避難時の水深は「50cm 以上 100cm 未満」が 17.2%で最も多く、次いで「30 ㎝以上 40 ㎝未満」「100cm 以上」が 9.9%となっています。

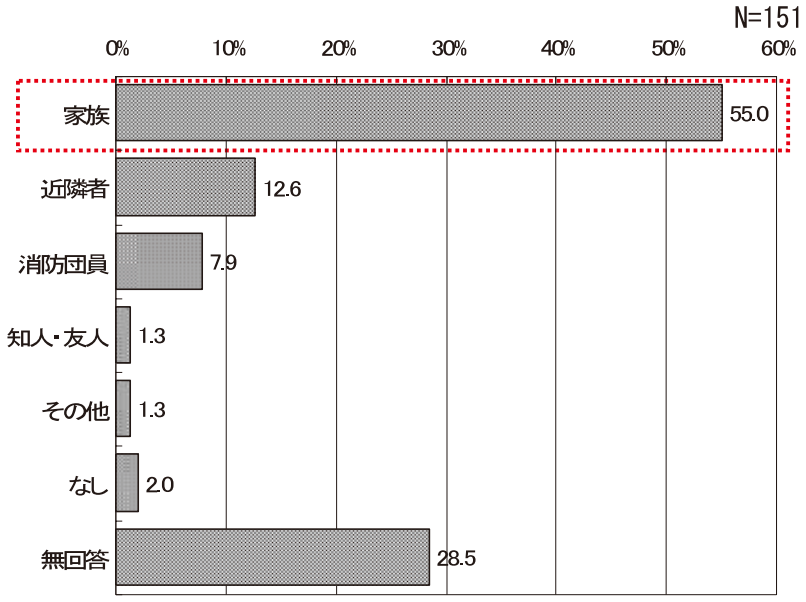
＜避難時の水深＞



問４−7．誘導してくれた人や一緒に避難した人

避難時に誘導してくれた人や一緒に避難した人は、「家族」が 55.0%で最も多く突出しています。次いで「近隣者」12.6%、「消防団」7.9%となっています。

＜誘導してくれた人・一緒に避難した人＞



問５．問３で２（避難しなかった）と回答されたかたにお聞きします。避難しなかった理由として
あてはまるもの全てに○印をご記入ください。

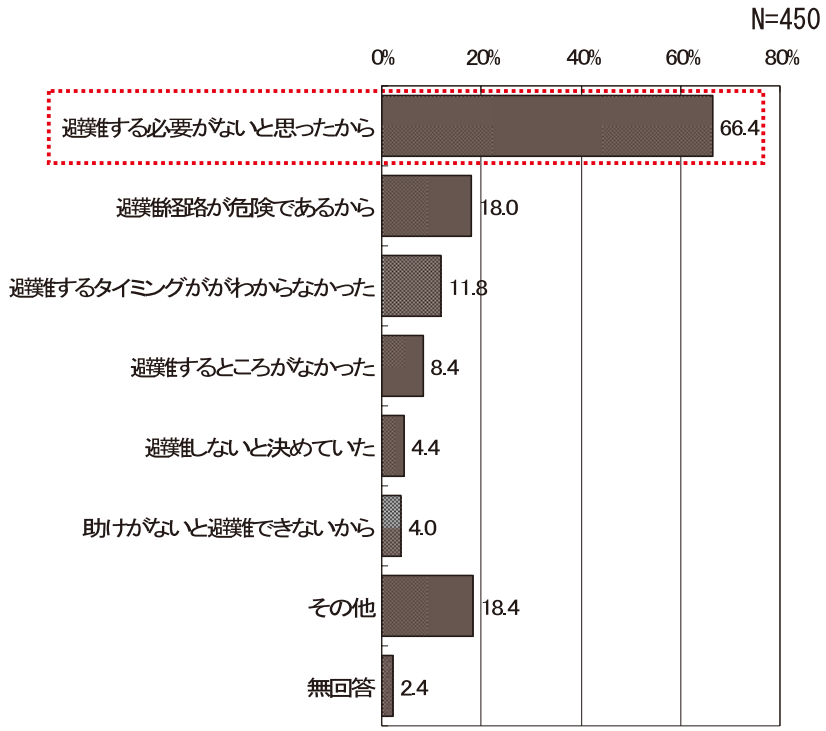
避難しなかった理由は、「避難する必要がないと思ったから」が 66.4%と最も多く、突出しています。次いで「その他」18.4%、「避難経路が危険であるから」18.0%「避難するタイミングがわからなかった」11.8%となっています。

その他としては、「すでに浸水していて避難が困難な状態となっていた」という意見や、寝たきりの病人や高齢者を抱える家庭では「助けがないと避難が困難」であるという意見が見られます。

また、「２階への避難のほうが安全であるから」と回答した方も多い一方、「防災行政無線が水没し、避難場所も分からない」「避難所も同じくらい危険と感じた」「避難経路が危険か安全かどうかわからなかったから」など、安全な場所や避難所までの安全な経路が分からないといった意見も見られます。

その他、「消防団として水防活動をしていたため」「土嚢などによって家屋や店舗を水害から守る方法をとっていた」など水防活動などをしていたため避難しなかった方も多く見られます。

＜避難しなかった理由＞

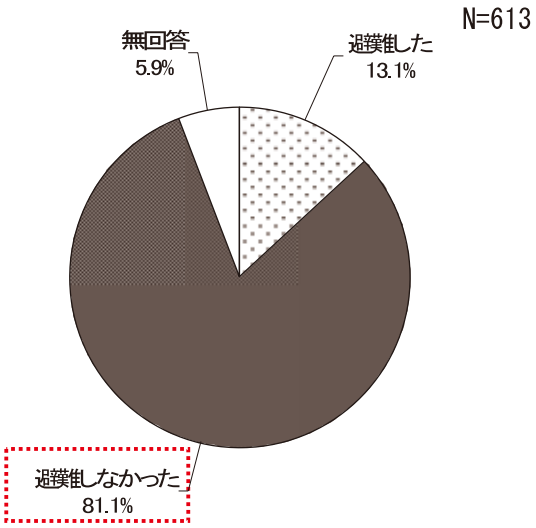


問６．あなたは過去の水害の時に避難をしましたか。あてはまるものに○印をご記入ください。

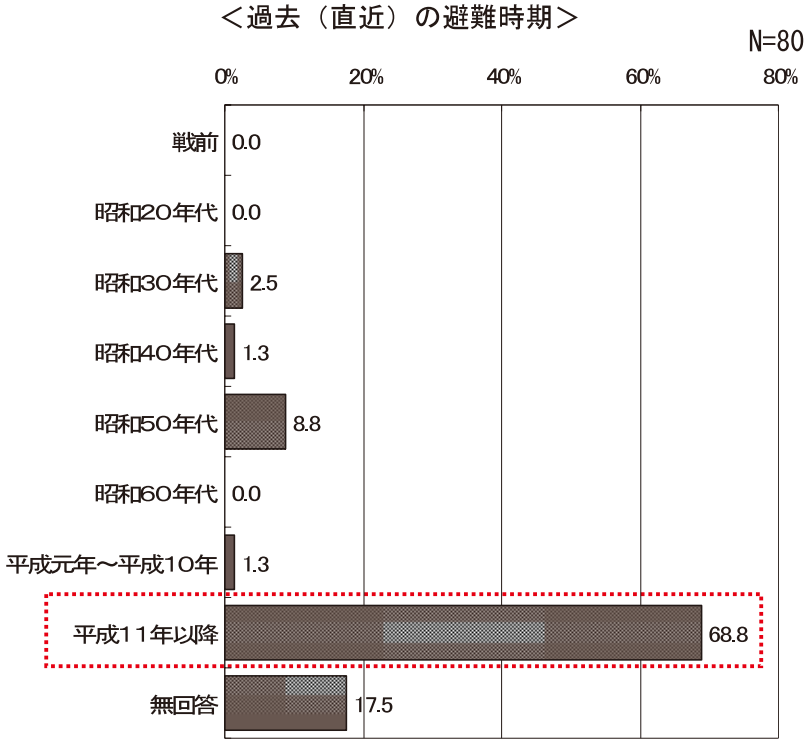
回答者の過去の水害時での避難の有無は、「避難しなかった」が 81.1%、「避難した」が 13.1%となっており、避難しなかった方が約８割と多くなっています。

過去に避難したことのある方で直近の避難時期を聞いたところ「平成 11 年以降」が 68.8%で最も多く突出しており、平成 16 年水害のことと想定されます。その他、「昭和 50 年代」8.8%、「昭和 30 年代」2.5%、「昭和 40 年代」「平成元年～平成 10 年」1.3%で避難したことがあると回答がありました。

＜過去の水害時での避難の有無＞



＜過去（直近）の避難時期＞



〈災害の被害や避難に関することの一考察〉

- 避難状況は、自宅２階への避難が多く、避難距離の平均は約３００m であることから、身近に避難できる場所や適切な避難方法が重要であります。
- 避難時間は１９時～２１時台が多く、５年前の水害の経験より避難勧告が出される前に避難をした人が多くなっていますが、河川の増水が早く、すでに浸水してしまったため、避難所への避難が困難であった人も多くあります。このため、だれもがいつでも的確な情報入手し、避難の可否を自ら判断できる仕組みが必要なものと考えられます。
- また、防災行政無線については聞いていない方が約半数となっており、雨の音で聞こえない、情報が明確でないなどの問題があり、防災行政無線の屋外対応や、様々な手段による情報伝達の必要性も伺えます。
- 避難しなかった人の多くは「避難する必要がない」と考えており、過去の水害時の経験により、２階への避難が安全であると判断するなど、避難については、降雨や水位の状況を踏まえ個人で判断することが重要であると考えられます。
- 避難時の水深が 50cm～100cm の方が多くあるが、大変危険であり、状況に応じて２階に避難するなどの判断も必要と考えられます。

水害に関する事前情報

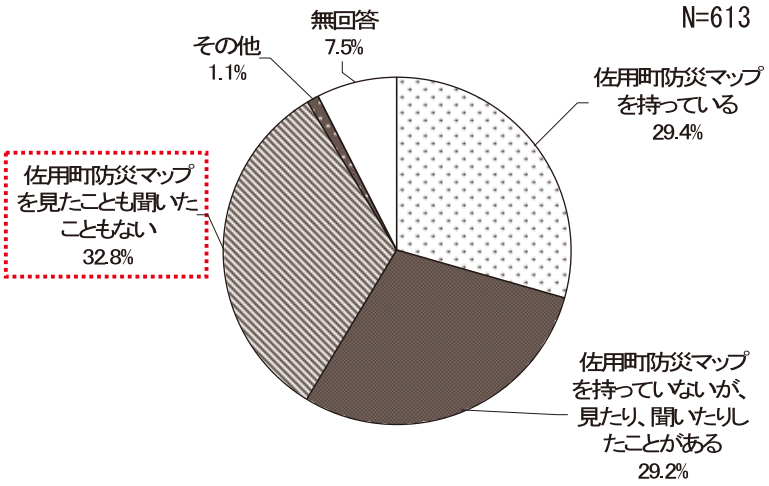
問７．町では浸水が予想される区域を示すものとして「佐用町防災マップ（洪水ハザードマップ）」を配布していますが、あなたはこの地図を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの１つに○印をご記入ください。

「佐用町防災マップ（洪水ハザードマップ）」の認知度は、佐用町防災マップを持っている」29.4%、「佐用町防災マップを持っていないが、見たり、聞いたりしたことがある」29.2%を合せると約６割の人が「佐用町防災マップ（洪水ハザードマップ）」の存在を知っています。

一方、個別に見ると「佐用町防災マップを見たことも聞いたこともない」は32.8%で最も多くなっています。

その他としては、「もらったように思うが、８月のような水害が今までなかったので保管していない」「以前に配布されたと思うがすっかり忘れていた」等という意見がみられます。

＜「佐用町防災マップ（洪水ハザードマップ）」の認知度＞

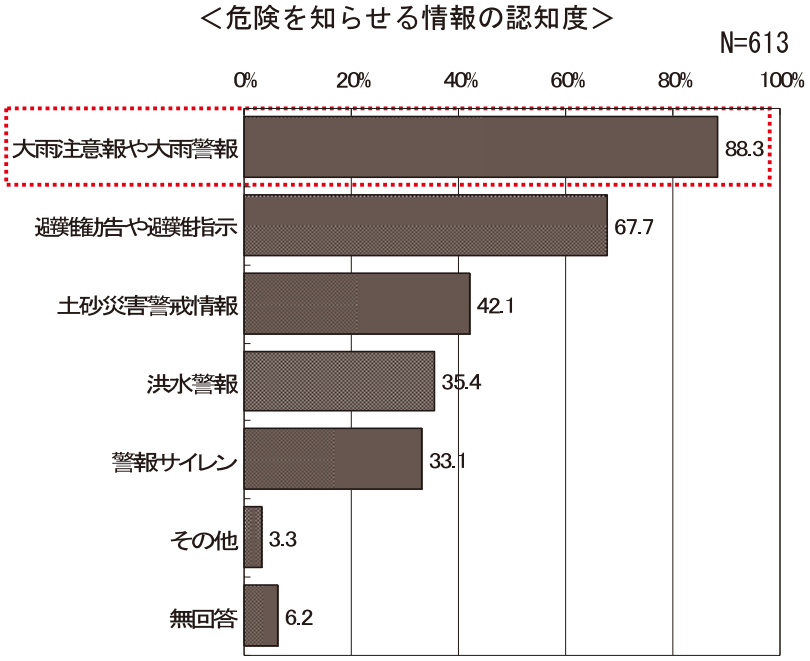


問８．水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に出される情報のうち、あなたが知っているもの全てに○印をご記入ください。

水害等の発生する危険性が高くなった時に出される情報の認知度は、「大雨注意報や大雨警報」が 88.3%で最も多く、突出しています。次いで「避難勧告や避難指示」67.7%、「土砂災害警戒情報」42.1%となっています。

その他としては、防災行政無線放送、有線放送、区長さんによる部落放送などの放送による情報提供やテレビでの情報、さよう安全あんしんネット、町や県が発信する携帯メールという意見が見られます。

＜危険を知らせる情報の認知度＞



〈水害に関する事前情報の一考察〉

- ハザードマップを持っている人は約３割と少なく、地域の危険箇所の認知が充分にできていないものと考えられ、今後充分な情報提供や地域における危険箇所の確認等が必要であると考えられます。
- ハザードマップを有効活用するためには、日頃からマップを使用（利用）した訓練の実施なども考えられます。
- 避難勧告や避難指示は、水害や土砂災害の発生する危険が高くなった時に出される情報で認知されていますが、今後とも、迅速で正確な情報の提供が必要であると考えられます。

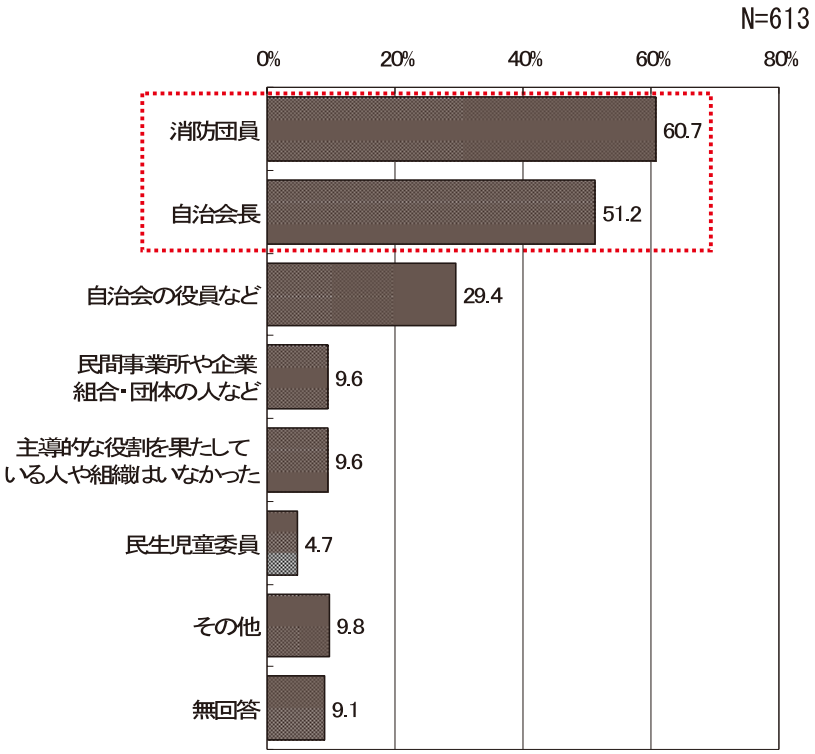
今回の水害時における地域の状況

問９．今回の水害時ではどのような人や組織が主導的な役割を果たしていましたか。あなたが知っているもの全てに○印をご記入ください。

今回の水害時で主導的な役割を果たしていた人や組織は、「消防団員」が 60.7%で最も多く、次いで「自治会長」が 51.2%となっており、この２つが突出しています。また、「自治会の役員など」も 29.4%と多く、消防団と自治会が主導的な役割を果たしていたことが伺えます。

その他としては、「家族・親族など」「近所の住民」「ボランティア」「役場職員」などが見られます。

＜主導的な役割を果たしていた人・組織＞



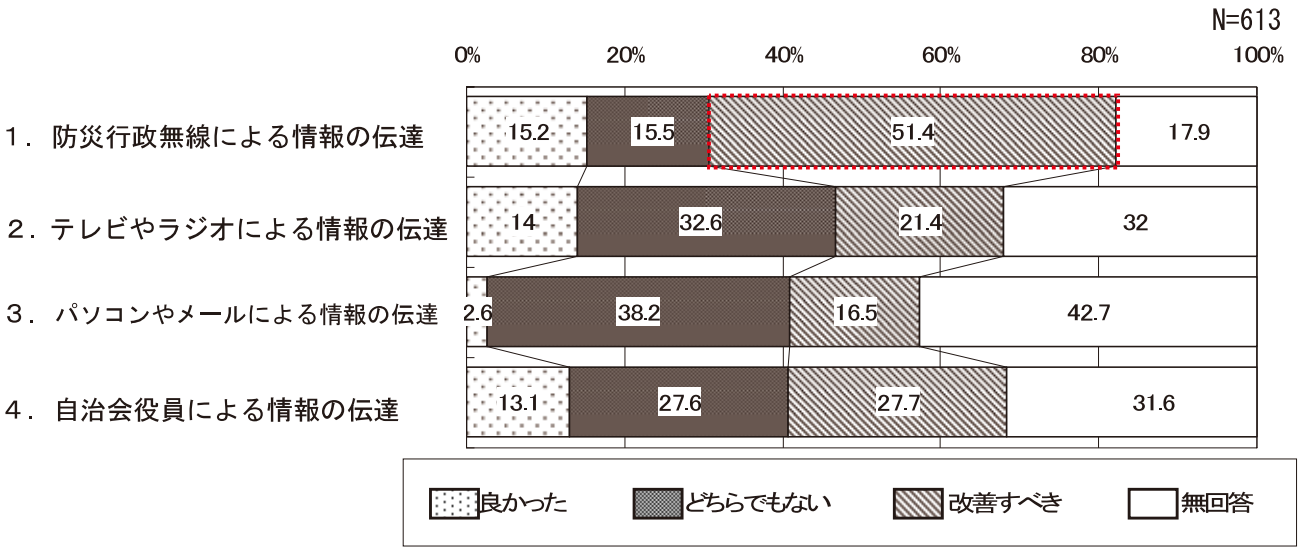
問 10. 水害時の情報の伝達について、あなたはどのように感じられましたか。項目ごとに最もあてはまるもの１つに○印をご記入ください。

「防災行政無線による情報の伝達」は“改善すべき”が 51.4%と最も多くなっています。
いずれの項目も“良かった”より“改善すべき”と回答した人が多くなっています。

１．防災行政無線による情報の伝達について改善すべきと回答した方の理由
・「地域により状況が違いすぎる」「大雨で音が聞き取りにくい」「情報が曖昧すぎる」「情報が遅すぎる」「佐用チャンネルの有効的な使い方が必要」　等
２．テレビやラジオによる情報の伝達について改善すべきと回答した方の理由
・「停電でテレビやラジオが使えない」「テレビやラジオでは災害地域の状況がわからず、不安や心配が大きかった」　等
３．パソコンやメールによる情報の伝達について回答した方の理由
〈PC やメールは役立つ〉
・「PC やメールでの情報伝達は TV・ラジオと違い、その内容を保存し、すぐに確認できる利点がある。携帯電話での防災情報は、機器の扱いに慣れた若い世代の行動効率が上がると思われる。」　等
〈PC やメールは役立たない〉
・「高齢者にとってはパソコンやメールは機器を持っていないので役に立たない。」　等
４．自治会の役員などによる情報の伝達について改善すべきと回答した方の理由
・「自治会などからの情報連絡がなかった」　等

その他（主な意見）
〈的確な情報の不足〉
○「情報伝達が遅く、情報が入ったときには既に避難できない状態であった」
○「個々の情報が曖昧で統一されていない」
○「混乱していて何が何やらわからない情報が多かった」「情報が少ない」「雨量・水量などの情報がない」
〈情報伝達の方法の改善〉
○「一人暮らしの人、高齢世帯の難聴の方に対する放送は聞こえないため、その人たちにも分かるような情報の伝達方法を考えるべき」
○「役場の支所や自治会単位での情報の伝達方法を考えるべき」
○「警報サイレンなどの導入」　等

＜水害時の情報伝達＞

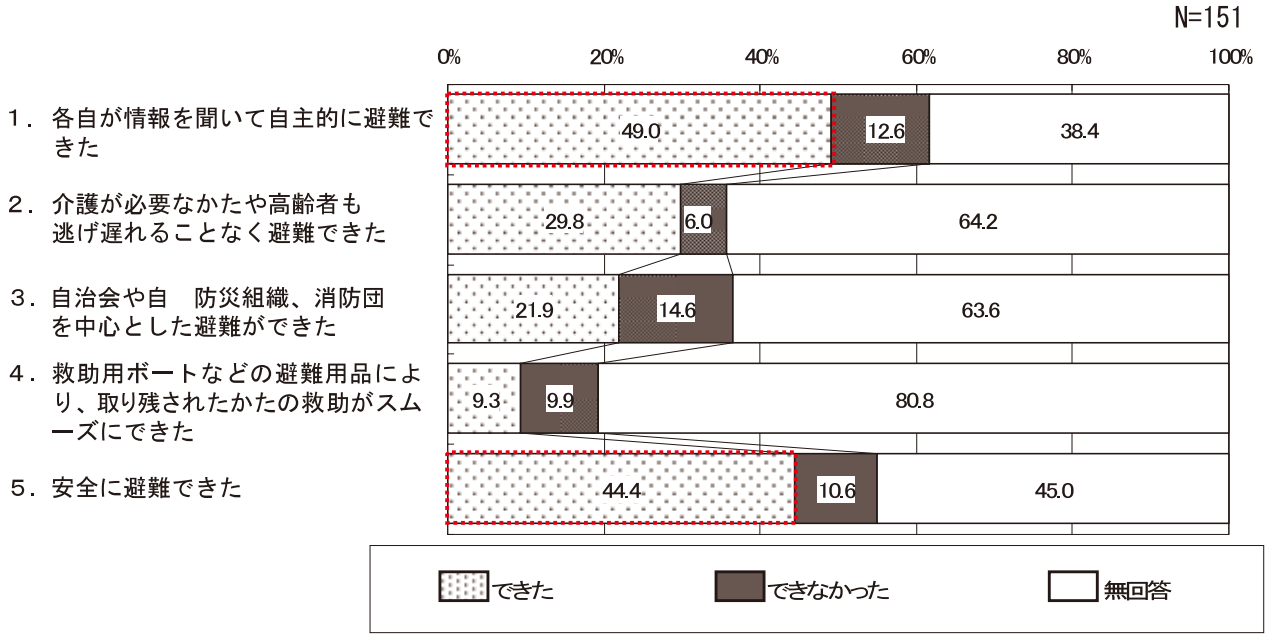


問 11. 問３で１（避難した）と回答されたかたにお聞きします。今回の避難について、あなたに該当するいずれかに○印をご記入ください。

今回の避難についてできたこと、できなかったことは、「各自が情報を聞いて自主的に避難できた」では“できた”が 49.0%で最も多く、次いで「安全に避難できた」が 44.4%となっていますが、「各自が情報を聞いて自主的に避難できた」以外の項目については、いずれも“無回答”が最も多くなっています。

できなかったと回答された理由としては、「パニック状態となったため、自主的に避難するしか方法がなかった」「高齢者が多く、連絡にも手間取り早く動けなかった」「避難の準備をしている間に浸水した」「避難はできたが水位が増加してからの避難だったので安全ではなかった」という意見が見られます。

＜避難についてできたこと、できなかったこと＞



〈水害時における地域の状況の一考察〉

- 今回の水害時には消防団員や自治会長が大きな役割を果たしており、今後も地域防災力のさらなる向上が必要となっています。
- 水害時の情報伝達は、大雨で音が聞き取りにくいなどの機器自身の問題と、地域により状況が違うため、地域に合せた正確な情報や刻々変わる情報を的確に知らせることが必要であるなど改善が必要と考えられます。
- また、停電した地域が多かったことから、テレビやラジオ、パソコンなどによる情報の伝達が出来ない場合、携帯電話もつながらない地域の対応など様々な手段によって情報を確実に伝達することが必要となっています。
- 自治会長は水害時での大きな役割を果たしていますが、情報伝達の部分ではうまく機能していない場合もあり、自治会組織としての情報伝達の向上が必要と考えられます。



消防団活動のようす

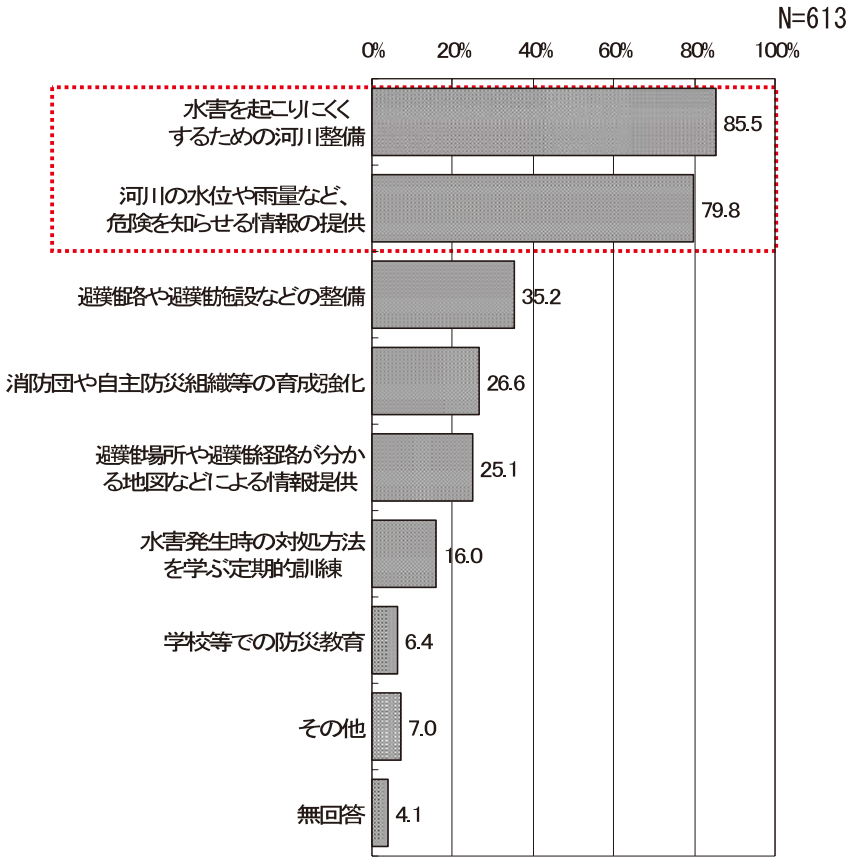
行政（役場など）に求めること

問 12. 水害から命や財産を守るため、あなたは行政（役場など）に対してどのような取り組みみを望まれますか。特に重視して進めるべきと考える上位３つを選び○印をご記入ください。

水害から命や財産を守るため行政（役場など）に求めることは、「水害を起こりにくくするための河川整備」が 85.5%で最も多く、次いで「河川の水位や雨量など、危険を知らせる情報の提供」が 79.8%で突出しています。

その他としては、「災害に関する意識の啓発」「一人住まいや老人の方の対処」「乱開発の防止・監視・行政指導」「倒木の対応」「行政職員の意識改革、町の防災体制強化」などの意見が見られます。

＜水害から命や財産を守るための行政の取り組みみ＞

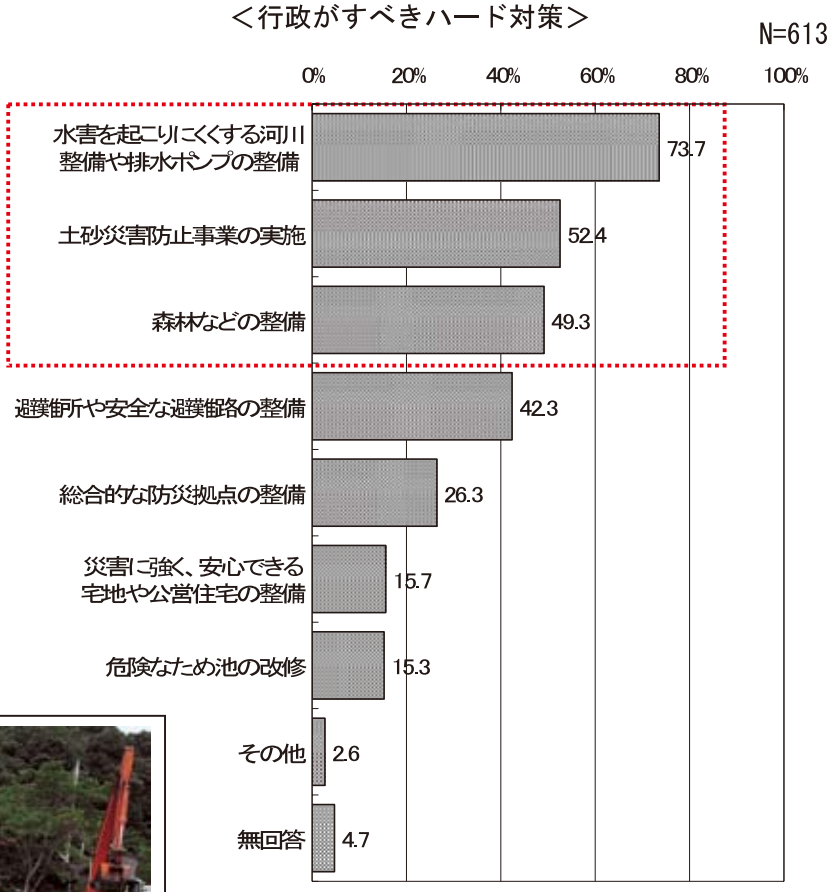


問 13.　下記のハード対策（構造物や施設などの整備）の中から特に重要と考える上位３つを選び○印をご記入ください。

ハード対策（構造物や施設などの整備）の中から特に重要と考えるものは、「水害を起こりにくくする河川整備や排水ポンプの整備」が 73.7%で最も多く、次いで「土砂災害防止事業の実施」52.4%、「森林などの整備」49.3%、「避難所や安全な避難路の整備」42.3%となっています。

その他としては、「佐用町独自の温暖化対策」「防災サイレンの設置」「消防車が活動できる道路網の整備」などの意見が見られます。

＜行政がすべきハード対策＞





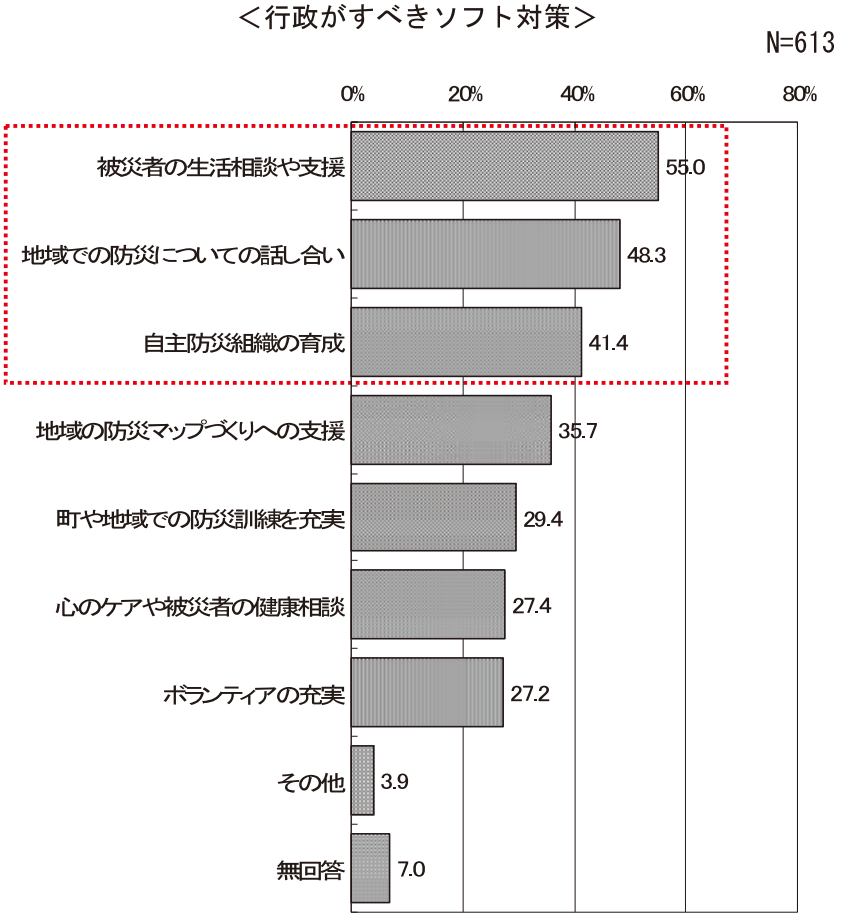
河川の災害状況

問 14. 下記のソフト対策（地域活動や人材育成、各種支援など）の中から特に重要と考える上位３つを選び○印をご記入ください。

ソフト対策（地域活動や人材育成、各種支援など）の中から特に重要と考えるものは、「被災者の生活相談や支援」が 55.0%で最も多く、次いで「地域での防災についての話し合い」48.3%、「自主防災組織の育成」41.4%となっています。

その他としては、「自治会等への専門員配置」「町職員の防災時の人員配置改善、役場の防災訓練」「災害対策本部の強化」などの意見が見られます。

＜行政がすべきソフト対策＞



〈行政(役場など)に求めることに関する一考察〉

- 河川整備、危険を知らせる情報の提供が行政に求められています。
- ハード面の対応としては、①河川整備や排水ポンプの整備といった河川そのものの整備の他、②土砂災害防止事業の実施、③森林など、治山の整備、④避難場所や安全な避難路の整備が求められており、行政が行うべき生活基盤整備や今後の防災に備えた整備を進めていく必要があります。
- ソフト面としては、被災者の生活相談や支援が多く求められていることから、町民の生活再建を進めていく必要があります。
- また、地域での防災についての話し合い、自主防災組織の育成などの防災に関する意識啓発を求める声も多く、自主的な活動を支援しながら地域防災力の強化を進めていく必要があります。

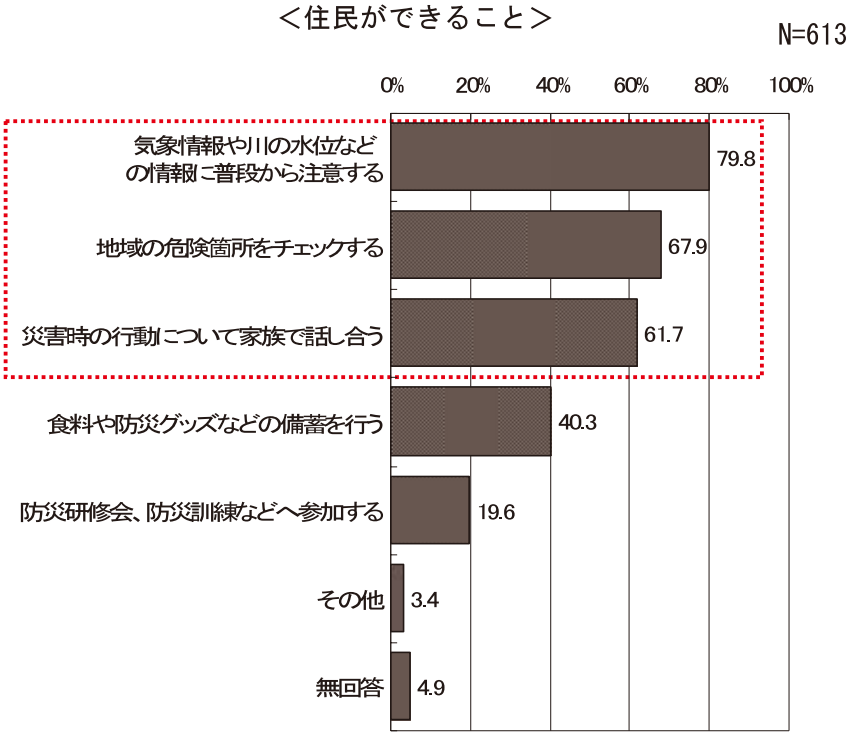
あなたができること、地域でできること

問 15. 水害や土砂災害の被害を少なくするため、あなたはどのようなことに留意する必要があると思いますか。上位３つを選び○印をご記入ください。

あなたができることは、「気象情報や川の水位などの情報に普段から注意する」が 79.8%で最も多く、次いで「地域の危険箇所をチェックする」67.9%、「災害時の行動について家族で話し合う」61.7%となっています。

その他としては、「土嚢の備蓄」「集落単位での専任員配置」「年寄り・子どもは早く避難する」「避難時の持ち出し品の保管場所の確認」などの意見が見られます。

＜住民ができること＞

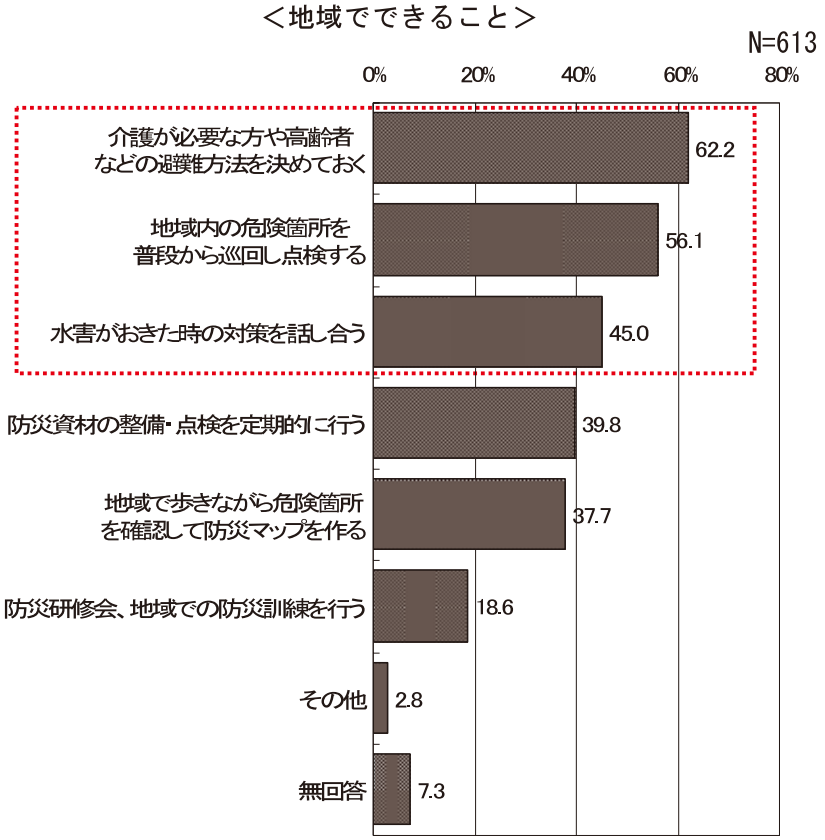


問 16. 水害や土砂災害の被害を少なくするため、地域でどのようなことに留意する必要があると思いますか。上位３つを選び○印をご記入ください。

地域でできることは、「介護が必要な方や高齢者などの避難方法を決めておく」が 62.2%で最も多く、次いで「地域内の危険箇所を普段から巡回し点検する」56.1%、「水害がおきた時の対策を話し合う」45.0%となっています。

その他としては、「自主防災の育成指導」「避難所に水や非常食を備蓄する」「各地域ごとの防災マップを作る」「河川の整備、草やゴミの掃除等」などの意見が見られます。

＜地域でできること＞



〈あなたができること、地域でできることに関する一考察〉

- 個人でできることは、気象情報や川の水位などの情報に普段から注意する、地域の危険箇所をチェックする、災害時の行動について家族で話し合うといった日頃からの防災への備えやその対応を考えるなど、個人個人の防災に対する意識を向上していく必要があります。
- 地域でできることは、災害時要援護者などの避難方法を決めておく、水害がおきた時の対策を話し合うなど地域での水害時の行動についてマニュアル化し、地域防災力のさらなる向上を図る必要があります。
- また、個人同様に地域内の危険箇所を普段から巡回し点検するといった、日頃から地域の結びつきを深め、防災時にも助け合えるコミュニティの強化を図る必要があります。

水害を受けて考えること、伝えること、復興のイメージなど

問 17. このたびの水害を受けて、あなたの経験や考えることなど、今後のために伝えていかなければならないと思うことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

（１）体験談に関する意見の例

- この度の災害は生まれて初めての経験で、自分はケガをした中、親戚や友達に何日も助けていただきお世話になりました。この御恩は忘れる事ができません。
- 今回の水害はＨ16 年災害に比べても極めて甚大な被害をもたらしたが、私にとっては本当に想定外であったため、車２台も廃車となった。今までに経験したことがないレベルであった。

（２）教訓に関する意見の例

- 一人一人が避難判断する。要援護者の避難援助をする。小学校で防災訓練を実施する。集落でも防災訓練をする。
- 連絡がとれなくなった時は全員が心配で、探すのに手間がかかるので、自分の居場所は常に誰かに伝えておく事は大事である。
- 一人一人が気象情報などに普段から関心を持ち、注意しなければならないと思う。雨量が多くなると自分の家の周りがどのようになるか、水の流れはどうかなど、知っておかなければいけないと思う。

（３）ボランティアに対しての意見の例

- ボランティアの人達に本当に感謝しています。他地域で災害があった時は、いち早くボランティアに行こうと思いました。
- ボランティアの方々が全国から来てくださって、本当に元気を頂き、頑張らなくてはと感謝でいっぱいです。自分にも何かできることを見つけて、小さな事でも人々の役に立つ事をしなくてはとの気持ちを大きくしました。またこのような助け合いの気持ちは子どもや孫にも伝えていきたいです。

（４）災害時の助け合いの精神に関する意見の例

- お年寄りや小さな子どものいる家、母子家庭等、人の助けが必要です。地域で声をかけ合いながら避難ができれば心強いです。
- 水害を経験した事により、地域の方々との助け合いの精神が生まれ、家族の絆も深まったと思います。また物の大切さ・ありがたさもよくわかり、日頃から物を大切にと思うようになりました。

（５）その他

- 地域防災の充実。どんな小さな事でも、できなくても検討してディスカッションしてほしい！特に地域防災活動の徹底を図ってほしい（一般住民含む）。今回は人災だと私は思います！行政の対応を切にお願いします
- 避難勧告の出し方を的確にわかりやすく、経路などを伝えてほしい。その時点で川の洪水の様子や道路の水没等も知らせてほしい。気象予報と時間の経過をもっと科学的に分析して、それを防災行政無線で知らせてほしい

問 18. 町では水害から一日も早く、以前にも増して美しく、「安全あんしん」で住みよいまちにしていくため、全力で復興に取り組んでまいります。あなたが思う、水害から復興へのイメージ（思い・希望・理想など）について、ご自由にお書きください。

（１）まちの未来像に関する意見の例

- 活気ある安全あんしんな町づくり。
- 自然とうまく調和した佐用。
- 安心して暮らせる町づくり。地域や人を大切にした町づくり。
- 知らない人でもすれ違う時には「おはよう」、「こんにちは」そんな声かけがしあえる町。
- 水害に強い町づくり。
- 「農業の復興」と「教育」に力を入れてほしい。
- 医食同源と教育の町佐用

（２）水害を忘れないようにするための施策に関する意見の例

- 今回の水害を忘れないために、何か形のあるものを残してほしい。
- 星の都さよう、ほたるの町、ホルモン焼きうどんなどいい所がたくさんある佐用なので、決して忘れられないように、元気な佐用をもっともっとアピールしていって下さい。
- この度の水害で犠牲になった方々がいることを佐用町の住民として決して忘れてはならない。

（３）復興で重要なことに関する意見の例

- 堤防を早く強固なものにしてほしい。
- 道路、特に歩道の柵などの整備、田畑・河川の工事を早くするべきだと思う。
- 安心して住める町営住宅。
- 普段から、危険箇所は地域でチェックしておく必要がある。
- 今回の災害について自然災害の面、人災の面をよく分析して今後の対策をたててほしい。
- 災害や不測の事態などに対して、行政や町民が柔軟に対応できるような町に。
- 大変な時こそ、佐用町民が一つになって安心して生活ができる町づくりに取り組むべきです。人的、物的に大きな財産を失いましたが、注目してもらっている佐用町だからこそこれから発信できること、「安全 100%の町」づくりを行えるように期待します。

（４）その他

- 希望や理想などを考えるよりも先に、元の生活に戻れるようにしてから「・・・以前にも増して美しく・・・」を考えるべきではないのか。
- 今回ボランティアも含め、色々な所から支援していただいたことに感謝し、町としても近くで被害があったときは積極的に支援してほしい。
- 町民が一体となって復興へ向かっていけるようなスローガン的なものを作り１年、２年後というより何十年先の事を見据えて復興をしていってほしい。
- 自然が持つ力というものを最大限に活用しながら、防災に取り組み、地域にある観光資源、商業資源をうまく活かしながら復興を全国の方にアピールしていく事が大切であると思う。

問 19.　佐用町への居住意向

佐用町への居住意向は、「住み続けたい」が 70.3%で突出しており、「町内で移りたい」2.0%を合せると、７割以上が佐用町で住み続けたいと考えていることが伺えます。

一方、「町外に移りたい」は 7.7%と１割未満となっています。

1．住み続けたいと回答した人の理由は、「空気がおいしく自然が豊かだから」「生まれ育った土地であり愛着があるから」「住みなれた町だから」という意見が多く見られます。

2．町内で移りたいと回答した人の理由は、「２回も被害を受けた場所には戻りたくないが、生まれ育った町内に住みたいから」「水害の起こらないような安心して住める場所に移りたい」「今回以上に雨が降ると浸水しそうで怖い。家の裏が山なので土砂崩れの危険もあるから」という意見が見られます。

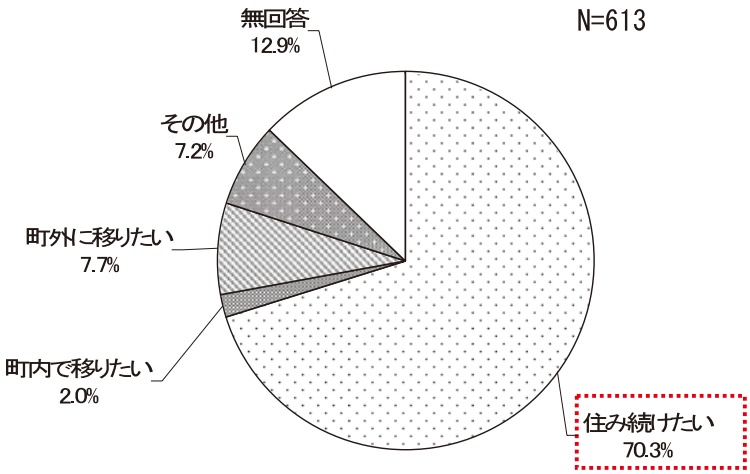
3．町外に移りたいと回答した人の理由は、「交通に不安。自然は豊かで住みなれた佐用であるが、老いていくにつれ生活に支障があるから」「雨が降るたびに心配だから」「いろんな面で不便で職場が少ないから」という意見が見られます。

4．その他と回答した人の理由は、「安全が実感でき、住みよい佐用町になるなら住みたい」「今回の災害を教訓に「安全あんしん」な町作りを見守りたい」「自然環境は良く、子どもを育てるのに都会に比べれば治安は良いけど本当に住み続けたい町かどうかはわからない」などの意見が見られます。

＜居住意向＞



棚田風景



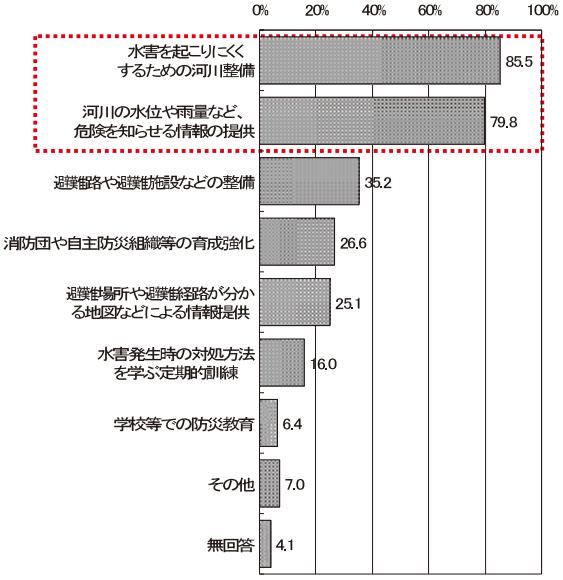
アンケートの考察

アンケートの結果

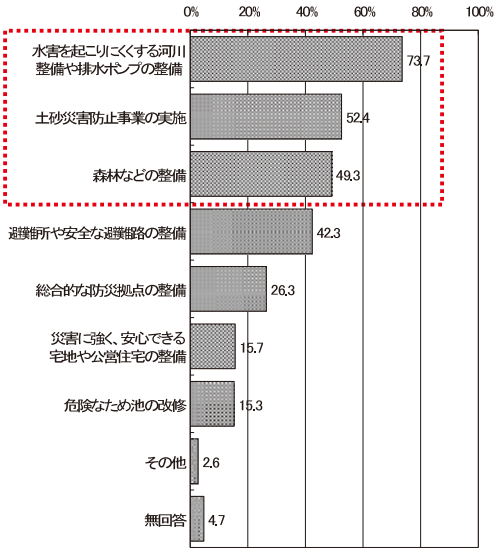
- 河川整備を求める声（85.5%）が最も多く、町民の総意としての要望と考えられる。
- 行政に求めるハード整備は、河川整備や排水ポンプの整備といった河川そのものの整備の他、土砂災害防止事業の実施、森林などの整備といった治山、避難所や安全な避難路の整備といった施設や道路の整備が求められている。
- 行政に求めるソフト対策は、まずは、生活の再建が何よりも優先すべきとなっている。

- 問 12：行政に求める取り組みとして、「水害をおこりにくくするための河川整備」が約９割と最多
- 問 13：重要なハード整備：①「河川整備や排水ポンプの整備」②「土砂災害防止事業」③「森林整備」④「避難所や安全な避難路の整備」
- 問 14：重要なソフト整備：①「被災者の生活相談や支援」②「地域での防災についての話し合い」③自主防災組織の育成

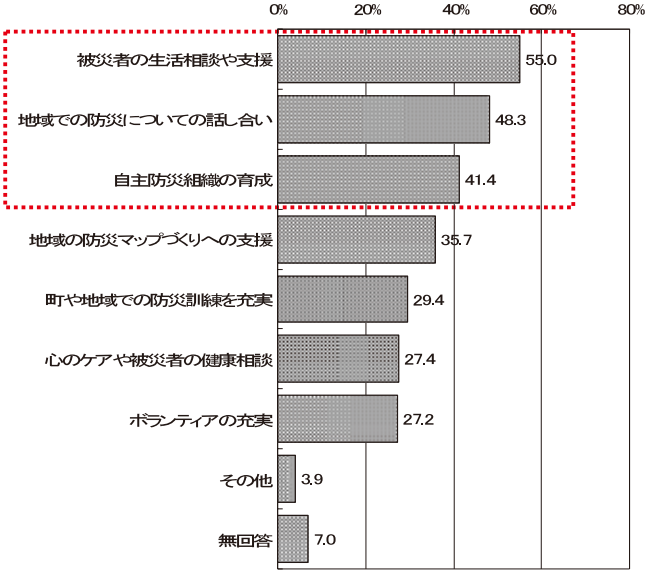
＜問 12　行政に求める取り組み＞



＜問 13　重要なハード整備＞



＜問 14　重要なソフト対策＞



アンケートの結果

■自由記述より（問１７、１８）

＜河川整備を第一とした復旧・復興＞

- まず第一に河川の整備を完全に近いものにしてほしい。そうでないと安全あんしんとは程遠い。一にも二にも河川改修を早急にやってほしい。
- 河川工事の遅れが引き起こした大災害であり、一日も早く河川改修を念願する。
- 二度と水害が起きないようにハード面での復興を望む。河川改修が安全あんしんな町づくりとなり、あわせて地域の活性化に繋がる。
- 堤防を早く強固なものにしてほしい。河川の不安な地域の改修を早くする。山・砂防ダム・川底の清掃等が重要。
- 川をもっときれいに、浅い所は深く土砂をさらえて川の流れをよくするように。

＜山林整備、田畑の整備の重要性＞

- 森林の整備、河川の整備を行い、豊かな自然に囲まれた安全な町にし、ボランティアで来ていただいた方々に再訪してもらえるような町にしなければならない。
- 山の木、伐採の後始末、株など置きざりになると大雨の時に流れて橋などに引っ掛かり、また水害を起こす原因となる。
- 川の端に流木が引っかかって水があふれた。山の木が流れたためこのような事になったので、復旧は山の管理から。
- 田畑の土砂を早く取り除くことが急務である。
- 山道・農道・小川などの整備を優先する。道路、特に歩道の柵などの整備、田畑・河川の工事をすませるべき。
- 16 年の台風以降、山林の木の整備ができていなかった。自然・山・川の多い佐用町を守っていく必要がある。
- かつての町の基幹産業の農林業が衰退して山林整備ができなかったことが水害の大きな要因である。

＜住宅地、土地・家屋の整備の重要性＞

- 水害にあった家・土地・河川・山・田畑、復興に向けて町は大変だが頑張って、一日も早くもとどおりにほしい。
- 安全で安心な宅地造成を町でお願いしたい。家を失った人が早く元の生活に戻れるようにしてほしい。
- 今後、若い人達が地元に戻って来て住みたくなる様な安心かつ安全な町づくりの為に力を注いでほしい。

◆生活基盤の再生

～安全であんしんして暮らせるふるさと～

〈ハード〉
- 治水、治山などの基盤整備
- 農林業の基盤整備
- 住まいの再建

〈ソフト〉
- 生活の再建支援
- 居住支援

アンケートの結果

〈地域の自主防災の大切さ〉

- 個人でできることは、気象情報や川の水位などの情報に普段から注意する、地域の危険箇所をチェックする、災害時の行動について家族で話し合うといった日頃からの防災への気づきと話合いの重要性があげられている。
- 地域でできることは、要援護者などの避難方法を決めておく、水害がおきた時の対策を話し合うなど水害時の行動方針についてのマニュアル化の重要性があげられている。

〈コミュニティ防災の重要性〉

- 誘導してくれた人は、家族、近隣者、消防団であり、日頃からの付き合い、避難時のコミュニティの重要性が伺える。
- 危険箇所を普段から巡回し点検するといった、防災を通じた日頃からのコミュニティづくりの重要性があげられている。

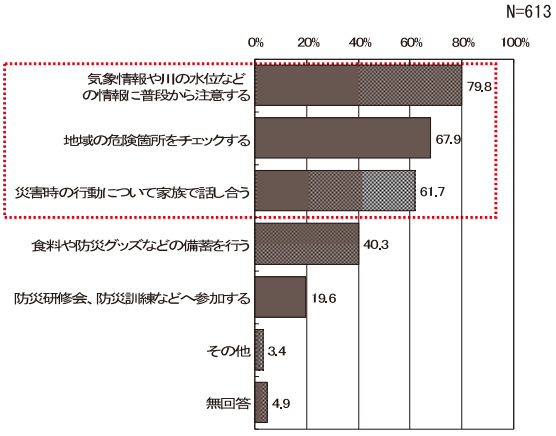
〈情報伝達手段の重要性〉

- ハザードマップを持っている人は約３割と少なく、地域の危険箇所の認知が充分にできていないため、今後充分な情報提供や地域における危険箇所の確認等が必要であると考えられる。
- 避難勧告や避難指示は、水害や土砂災害の発生する危険が高くなった時に出される情報で認知されているが、今後とも、迅速で正確な情報の提供が必要であると考えられる。
- 水害時の情報伝達は、「大雨で音が聞き取りにくいなどの機器自体の問題」「地域により状況が違うため、地域に合せた正確な情報や刻々変わる情報を知らせることが必要」。
- 停電した地域が多かったことから、テレビやラジオ、パソコンなどによる情報の伝達が出来ない地域、携帯電話もつながらない地域があるなど確実に情報が伝達できるツールの必要性も伺える。

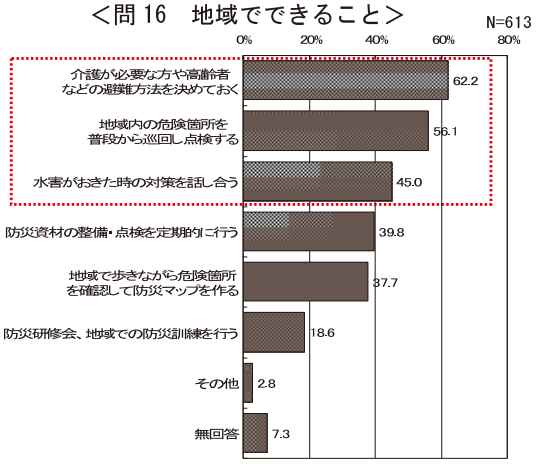
〈地域の自主防災に関すること〉

- 問 15：自分たちや地域でできること①気象や川の水位などの情報に気をつける②地域の危険箇所をチェックする③災害時の行動について家族で話し合う。
- 問 16：地域での留意事項①要援護者の避難方法を決めておく②危険箇所を普段から巡回③水害が起きたときの対策を話し合う。
- 問 17：今後のために「集落での防災訓練」「自分の居場所を常に伝える」「避難勧告の出し方や適確な避難経路の情報提供」。

＜問 15　住民ができること＞



＜問 16　地域でできること＞

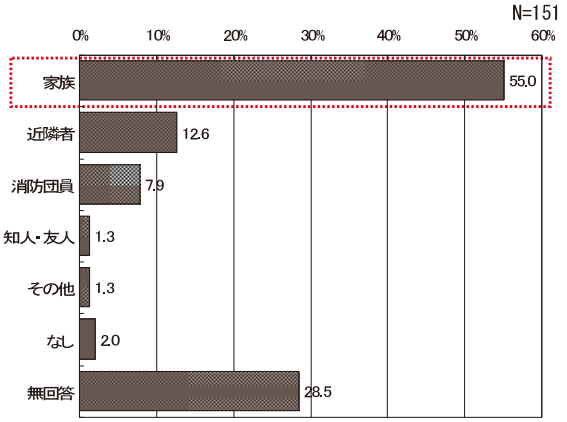


アンケートの結果

〈コミュニティ防災に関すること〉

- 問 4-5：５年前の水害の経験を踏まえ避難開始、近所や自治会、消防団の呼びかけに応じた。
- 問 4-7：避難時の誘導や一緒に避難したのは家族が６割のほか、近隣者、消防団となっている。

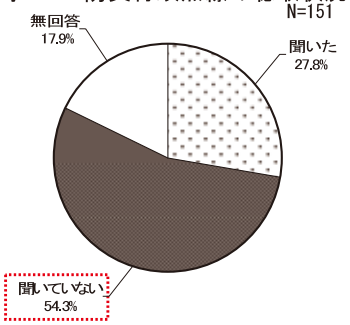
＜問 4-7　誘導してくれた人・一緒に避難した人＞



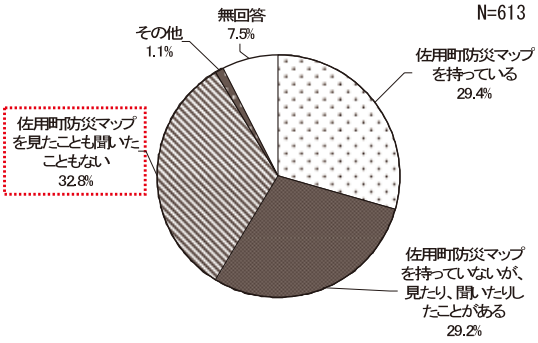
〈情報伝達に関すること〉

- 問４-４：防災行政無線を聞いていないが約５割。
- 問７：佐用町防災マップを見たことも聞いたこともない方が１／３以上と最多。
- 問 10：防災行政無線による情報伝達は“改善すべき”が７割。それ以外も改善すべき点が多い。

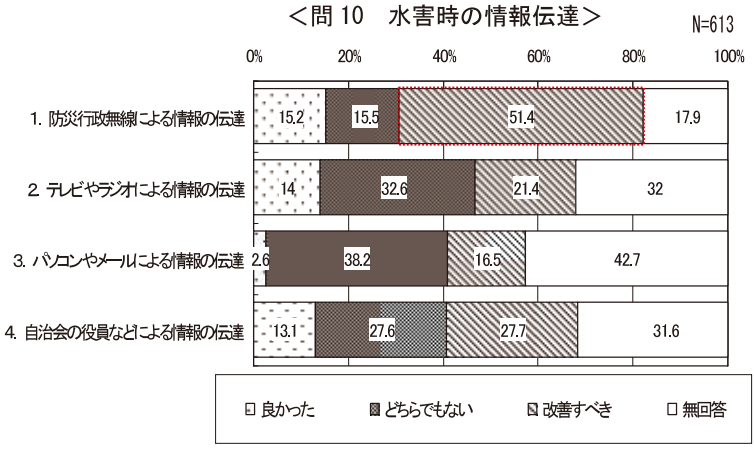
＜問 4-4　防災行政無線の聴取状況＞



＜問 7　「佐用町防災マップの認知度＞



＜問 10　水害時の情報伝達＞



◆災害に強いまちづくり

～地域の絆で高める防災力～

・早期の避難判断、適切な避難方法

・日頃からのコミュニティの形成

アンケートの結果

■自由記述より

問 17：「ボランティアへの感謝の気持ちが大きい」。

問 18：水害からの復興のイメージ（1）まちのイメージ「活気のある安全・安心なまち」「自然とうまく調和した佐用」「若者の住めるまち」「安心して住めるまち」「水害に強い町づくり」「医食同源と教育の町佐用」（2）水害を忘れないようにするための施策「何かかたちのあるものを残してほしい」「元気なまちをもっとアピール」「犠牲者の方々を忘れてはならない」（3）復興で重要なこと「堤防を早く強固に」「安心して住める町営住宅」「危険箇所を地域でチェック」「安全 100%のまち」。

■自由記述より

- ホルモン焼きうどん・うましの里。安い公共交通の整備によって商店街に来る人を増やす。
- 24 時間営業の飲食店、流行のファッション・アパレル店、アミューズメント施設。レンタルショップ等、若者向けの多彩な機能・施設の整備。
- 自己負担の多い商売人への補助。

⇒　商店街などの活力向上

■自由記述より

＜地域の特色を活かした活性化＞

- 星の都さよう、ほたるの町、ひまわり畑、ホルモン焼きうどんなどいい所や美味しいものを活かす
- 「農業の復興」と「教育」に力点を置いて PR「医食同源と教育の町佐用！」。
- 自然が持つ力を最大限に活用した防災の取組み、地域にある観光資源、商業資源をうまく活かした復興を全国の方にアピール。
- 山の手入れから販売までの一連の活動による活性化。

＜水害を逆手にとった PR と活性化＞

- これだけ狭い場所で多数の犠牲者が出て日本中に有名になったことは残念だが、逆にこれを機会に日本で一番安全だと言われるモデル地区をめざす。
- 21.8.9 の日を町として独自に設置し、町あげてのイベント（例えば、追悼式等）を毎年行なう等、あくまで厳粛にお祭りさわぎはとは、異なるものの実施。

＜情報発信や交流スローガンによる活性化＞

- 町民が一体となって復興へ向かっていけるようなスローガン的なものの作成。
- 町外の人に佐用町について知ってもらい、その良さが多くの人に伝われば町全体が元気に復興へと進む。
- 周辺地域の協力で地域の活力を更に向上し、豊かな自然を活用。
- 各地域のミニ喫茶店の集いは子供からお年寄りの方まで集まり、楽しそうに会話をされており、この様な集まりから情報を交換し地域の発展の活力にしたい。

＜実のある活動による活性化＞

- 形だけの催し物にならない（根底にある人々の論理観、モラル、道義心、町民全ての人々の“心”かつ”生活”を豊かになれるようなもの）。
- イベントには賛成しにくい。本当に困っている人はイベントに行ってない。のんきな人が必ず参加している。
- 働く場所の確保。

⇒　地域のにぎわい・交流の創出

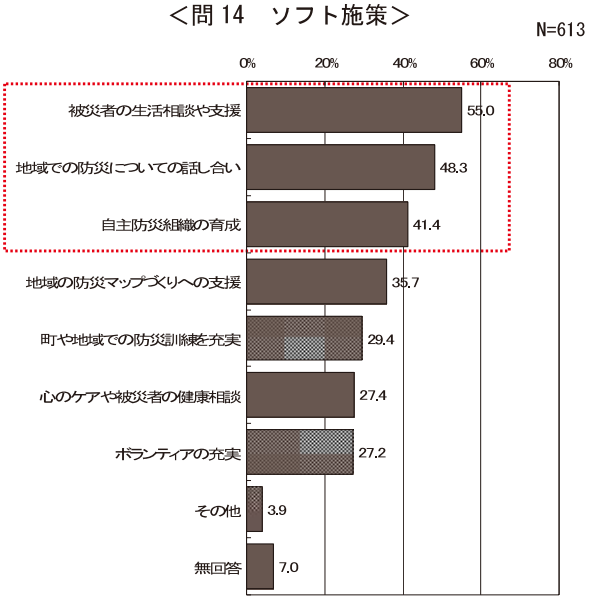
ソフト整備としては、心のケアや福祉の充実や安心して子どもを産み育てられる医療・福祉のなど、地域ケアの充実が求められている。

■自由記述より

- まずは、被害に合われた方の心のケアから始めたら良いと思う。　子供達の心のケアが大切である。
- 子どもたちがニコニコ笑えるイベントの開催。
- 火災保険、自然災害でも対象となる保険に誰もが加入しておく必要がある。
- 福祉バスのようなある特定の人だけが利用できるものではなく地域住民みんなが利用できるような交通システム（さよさよサービスの拡充）の構築。
- 被災者との対話。
- 福祉の充実。
- 子どもをの生み育てられる環境整備として共立病院に産婦人科を設立。
- 保健師さんが生まれた赤ちゃんの家へ訪問し、色々な育児指導を実施し、安心して出産を迎える事が出来るようなシステムを構築。

⇒（保健、医療、福祉などの）健康のまちづくりの推進

＜問 14　ソフト施策＞



◆地域の活力向上

～地域がきらめくにぎわい創出～

・商業活力の向上

・地域のにぎわい・交流の創出

・（保健、医療、福祉などの）地域ケアの充実

アンケートへの自由意見

問 17 の自由意見（一部抜粋）

問 17. このたびの水害を受けて、あなたの経験や考えることなど、今後のために伝えていかなければならないと思うことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

大変な事態に直面するまで気づかなかったことに一番驚きました。テレビで警報は出ていてもまさかと思って気にもとめていなかった。やはり、無線など身近な情報網がもう少し早めにあればと思います。

自分の家が大丈夫だったことで、かえって被害に遭われた方々に申し訳ないような気がしてボランティアでお手伝いすることによって自分の気持ちが救われたような気がする。

自分の身勝手さが何か嫌でした。こんな時こそ助け合いの大切さを痛感しました。近隣だけに限らず遠方からのボランティアの方々に本当に感謝しています。

まずボランティアの方々が全国から来てくださって、本当に元気をいただき、頑張らなくては･･･と感謝でいっぱいです。

自分にも何か出来ることを見つけて小さなことでも人々の役に立つことをしなくてはとの気持ちを大きくしました。

また、この様な助け合いの気持ちは子供や孫にも伝えていきたいです。

まずは河川の整備など基盤の整備が重要である。復興していくにも佐用らしさを忘れずに復興していってほしい。

また、町民が一体となって復興へ向かっていけるようなスローガン的なものを作っていけばいいのではないかと思う。

そして１年、２年後というより何十年先のことを見据えた復興をしていってほしい。

佐用チャンネルで水害の様子が流されて初めて平福や久崎など NHK のニュース以外の大変な所を知った。これは大変良かった。

佐用チャンネルの文字放送は、音声も同時に（つまり読みあげる）流して欲しかった。じっとテレビの前に座って見ていることは出来ないので。

それと無線も常時流して、情報を伝えて欲しかった。もちろん大変な災害で完全に人が足りなく、中心の役場が大変なことになっていたので、手のまわらないことが多々あって、ご苦労されたと思いますが。

今回の水害を忘れないで、ご近所との助け合い、日頃の交流を大切にしたい。
私は災害には遭っていませんが、大切なふるさとを町民みんなでより一層美しい町にしていきたいです。
又、美しいふるさとづくりも大事なことですが、この災害で、人と人とのつきあい、人のぬくもり、ボランティアの大切さなどに佐用町民が、心の宝物を山程積んだと思います。
少なくとも私は、自分を反省、見つめ直せることが出来ました。佐用町民としてより日々の努力向上を目指します。

親戚の家の片付けの手伝いに行ったのが、復興には（これでよいというような）終わりがないなと感じた。
水害の少し前に、住んでいる地区の土砂災害などの、危険箇所を記した地図のようなものが、隣保の回覧板によって回されていました。家族でなんとなく見たが、今回のような水害が起こるとは想像出来なかったです。
思いつく最悪の**事態**を予測しながら、早め、早めの行動や対策が必要だと思いました。

役場・支所から離れている私の住んでいる集落では、まず自分たちで動ける体制づくりが必要であると改めて感じた。増水のため外部から車も入れなくなる。
頼りになるのは、消防団、地域の方々の自主的なたちのみ。今回も早々に役場・支所が浸水しているとの情報が入り、自分たちで守るしかないと･･･。
情報源も結局、役場からの放送を待っていては役に立たず･･･。個々の携帯での連絡のやり取りで何とか･･･という感じ。
命の危険に係わるようなこともあったが、消防団、そして他の消防団の連絡のやり取りで**幸**い犠牲者を出さずにすんだ。改めて普段から消防団の訓練されていることに感謝するとともに近所同士の助け合いのありがたさを感じた。
自分の命は自分で、自分たちの命は自分たちで。

ボランティアの方々には本当に感謝している。いつか自分がボランティアをすることでお返しが出来ればと考えている。

形だけの催し物にならないよう、根底にある人々の倫理観、モラル、道義心が出てくれるようなものをしていただいて、自己の利、その地域だけの利、ひいては町長はじめとする町会議員の利だけにならぬよう、町民全ての人々を“心”が“生活”が豊かになれるような行動を期待します。まず節約はどこから？節約できないのはどこ？

スローガンはいいけれども、どこの誰が聞いて見ても心穏やかに聞ける施策をお願いします。

まず災害が起きないようにすることは当然だが、起きてしまった時、今回のように全て行政に頼ってしまう。例えばお弁当だが、久崎のように村全部のところへは行政がしっかり関わっていかないといけないと思うが、そうでない所においては、昔ながらの助け合いが出来るように、普段からそういう考え方が町民全てにもってもらえるような働きがけができないかと思った。

どこもかしこも、行政からの助けが同じになるようにというのが見えたような気がして、経費の無駄、人手不足、いろいろなことがあったのではないかと思う。

少しでも自分たちの中で助け合って出来ることはその地域の中でするようしていかなければ、今後もし大きな災害にみまわれた時にどうしようもない事態を招きかねないと思った。

地域に住む方々との普段からのつながりが大切だと思います。知らない人でもすれ違う時には“おはよう”“こんにちは”そんな声かけがし合える町になればいい。学校教育で教えるべきです。高齢者に情報を伝えることも大事。各温泉施設が開放されたことがとても良かったです。何事もなくても今回のようなアンケートを募ることは日頃から行って、誰もが気軽に意見を言えるようにするのが良いと思う。言いたいことがあってもどこにいけば良いか分からず、相談できずにいるお年寄りの方もいると思うし、災害時だけでなくいろいろな生活面でも協力し合える町に。



地域上げての防災訓練

問 18の自由意見（一部抜粋）

問 18. 町では水害から一日も早く、以前にも増して美しく、「安全あんしん」で住みよいまちにしていくため、全力で復興に取り組んでまいります。あなたが思う、水害から復興へのイメージ（思い・希望・理想など）について、ご自由にお書きください。

美観も必要ですがしっかり安全な川の整備を希望します。川辺の住居の不安を強く感じました。安心して生活が出来る様水害について考えて欲しいです。
久崎の土地に若い人が住みやすい土地にしないと人口もだんだん少なくなることと思います。これから先が不安です。生活とこのような災害が起きないように特に水害に強い町づくりに力を入れてもらいたいです。

星の都さよう、ほたるの町、ホルモン焼きうどんなどいい所がたくさんある佐用なので、決して忘れられないように、元気な佐用をもっともっとアピールしていって下さい。
遠く離れた友人たちも佐用を心配しているので･･･
ひまわり畑の整備を早くして下さい。時期はまだですが、畑の横を車で通るたび、悲しくなります。役場の方も本当に大変かと思いますが、町民のために頑張って下さい。お体に気をつけて･･･

水害で被害にあった方たちは、きっと雨が降るたびに未だに恐怖心に残っていることがこみ上げていることだと思います。
そんな方たちの心のケアや家の改築、やむ無く自宅を離れ仮設でお住まいの方たちが一日も早く安心して住める状態に戻って欲しいと願います。
また私たちが普通に生活している中でまだまだ危険箇所はたくさんあると思いますのでチェックし、改善していく必要があると、この水害で改めて感じました。

自然が持つ力というものを最大限に活用しながら、防災に取り組み、地域にある観光資源、商業資源をうまく活かしながら復興を全国の方にアピールしていくことが大切であると思います。
そして、この水害を忘れずに新たな町づくりというものを進めてほしいと思います。

自然が持つ力というものを最大限に活用しながら、防災に取り組み、地域にある観光資源、商業資源をうまく活かしながら復興を全国の方にアピールしていくことが大切であると思います。

そして、この水害を忘れずに新たな町づくりというものを進めてほしいと思います。

これからは佐用町のイメージアップを図ることが大切だと思います。
そのためのセールスポイントとして「農業の復興」と「教育」に力点を置いて PR すると良いと思います。

佐用で作る農産物を無農薬の産物として PR したり、佐用の義務教育終了者はほとんどが英語検定の〇〇級や漢字検定の〇〇級を保障するなどの具体的な PR をして町のイメージアップを図ると良いと思います。

それと「医食同源と教育の町佐用！」などのように今の世の中にフィットするキャッチフレーズも必要ではないかと思います。

まずは被害を受けた場所の整備や、被害に遭われた方の心のケアから始めたら良いと思う。
5 年前の水害の時は整備しなかったと聞きましたが、そのようなことはせず、時間をかけてでも、役員で手分けをして、すみずみまで調べていただきたい。

私の家の近くでも山が崩れかけています。被害の中心に集中し過ぎて周りが見えないことはなくしてほしい。森林の伐採をやめ、田舎らしく自然豊かな町をつくってほしい。

避難訓練や話し合いを地域で行い、災害への取り組み、対策を呼びかける。
水害によって亡くなった命や長年行ってきた職を失うなどがありました。私はその被害状況を目に焼きつけ一生忘れません。

今回の水害ではたくさんのボランティアの方がいろいろな場から来てくださいました。
役場の方、町役員、消防団の方、暑い中お疲れ様でした。ありがとうございました。
友人の分も皆で支え合い頑張っていきたいと思います。

水害当時の町の体制に批判する記事を見かけたりしますが、まず過ぎたことを批判しないことだと思います。それでは東京の霞が関と同じです。

批判よりも、建設的な改善案を出しあうことが一致団結への第一歩だと思います。

ハード面では道路や河川は単なる原形への復旧ではなく改修をすることが大事と思います。その際には地元のお年寄りの話を充分に聞いて、昔の地形、今は無くなっている谷川、田んぼなど様々な歴史を加味するべきと思います。

特に国や県の事業となると佐用を知らない若い技術者が担当することもあると思いますが土地の人の意見を尊重してほしいものです。

次に、自動車が唯一の移動手段である佐用町ではさよさよサービスのような福祉車両をもっと充実させる必要はないでしょうか。

訓練、避難といっても運転できない高齢者は無力です。普段の健康相談なども車がなくて行けない人はかなり多いと思います。そして荒れた田畑は、原形復旧よりも、後継者の有無をよく調べて新しい農業事業を展開してはと思います。

ソフト面では、難しいことですが荒れてしまった佐用から生まれ変わる佐用への前向きな気持ちに切り換えていくことでしょうか。

山や田んぼなど見慣れた風景が荒れたままなので、なかなか切り換えても難しいと思います。

私自身そうなのですが小さな花が咲いていたことに勇気付けられたりしています。



小学生への防災学習のようす

安全あんしんの町を掲げて走り出した佐用町にまず声援を送ります！
高齢化社会が進む中どこかでいくつかの歯止めをかけなければ町は破綻の一路になるのでは･･･と心配している１人です。若者が町を去る理由の中に
①働く場所がないこと（現在では町を出てもありませんが）
②農業に夢を持てないこと
③安心して子供を産めないことなどがあると思います。
私が考える町のキャッチフレーズは、佐用町で働きながら子育てが出来る町づくりを！！です。
①働く場所の確保
もともと山間地であり農業で暮らしを守ってきた方々の多い町、今更、高い技術や工業の会社が佐用町へ来ることなど（佐用町へ呼び寄せることなど）夢の夢であり、又、例え、ハイレベルの会社が来たとて、そこで地域の人たちや若者が働けるかといったら、そうでもないと思う。地に踏ん張って身についた農業で町おこしが出来て暮らし続らけれたら良いなぁ～と思います。輸入、輸入とおどらされ、輸入の何でもが良く見えた、又、洋食が良いとされた時代が去り、今や無農薬、低農薬の有機肥料による米や野菜が脚光を浴びてきています。人間生きてりゃ、必ず、いえ地球上全てのものが必ず老廃物を出すのです。
②農業
今や国や県が推進している循環型社会を農業地域においてもしっかりと考える時期が来ているのではないかと思います。今回の水害、山からの流木が多く流れたこと、そこに、諸々のものが詰まり更に水害を大きくしたように思います。山の手入れや整備、落葉樹や照葉樹、ブナなど根の張る植林をすることにより、山崩れが少なくなり、今回のような流木による災害も少なくなると思います。又、民家及び、田畑の廻り（50ｃｍ巾位）の草刈りをして、すっきりさせることにより、猪、鹿、猿など、獣の害も少なくなると思います。こうした山や里の手入れをすることによって出された木や草や落葉などは堆肥にして（販売して収益にし）＝（腐葉土として販売する）田畑に戻す。こうした山の手入れから販売するまでの一連の活動が出来たら･･･と考えます。又、山の腐葉土を使った野菜づくりをして大阪辺の店に野菜を売り込む＝これが現実出来たら②の農業に夢を持てるようになるのではないでしょうか？
③安心して子供を産みたい。
私共家族が、この地にお世話になった時,産科はM医院があり、K病院上に助産所ありでした。産婦人科の施設のあるというところという観点で佐用を選んだのも一因です。これから町を興し、背負ってゆく若い人たちが安心して働き、子供を産み、育てることが出来る町のありようを願います。K病院の中に産婦人科を！いきなりこんなこと言っても無理は承知、せめて助産師さんをおくことは出来ないだろうか？保健師さんが生まれた赤ちゃんの家へ訪問し、いろんな育児指導をしてるような形で－助産師さんも妊婦さんの家庭訪問をして安心して出産を迎えることが出来るようなシステムが欲しいと思います。助産師は妊婦さんが希望している産科の医師や助産師とコンタクトをとる。そうすることにより、安心して出産に望むことが出来て、出産後は安心して佐用町に戻り、子育てが出来るというふうに。

私が子どものころ、町の基幹産業といえば農林業でした。ですから自然は町民の生活の一部でした。米つくりには水が不可欠ですし、燃料は山の雑木が必要でした。河川の掃除は村人が総出で行い、雑木も定期的に伐採をくりかえしていたのです。多くの町民がそうした生活環境の中で自然への手入れを無意識にやってきたのです。いつの頃からか、生活環境が変わり、燃料は石油、ガスに、農耕は牛・馬・人力から機械化へ、生産手段も人工的になり、自然は人々の生活のよりどころから、ただの巨大な造形物となってしまいました。時代はいつしか、有り余る豊かな自然を持て余し初めたのです。

五年前の台風被害で多くの山林が倒木のまま放置されたのは、それらの賦産がもはや人々の生活手段や、よりどころにならなかったからにほかなりません。それでも私は 60 年近くこの町に生きてきて、この町の良さは何かと聞かれれば「自然が豊か」であると答えます。

いくら都市部並みの文化施設がたくさんあっても、交通網や上下水道など生活環境が近代化してもです。この町の自然が好きなのです。

私たちはある時期、開発という名で人為的に自然を破壊してきました。そして今は放置故の自然破壊を招いたといえるでしょう。“豊かな自然を守る”ひと口で言いますが安易ではありません。治山、治水の思想があってこその自然だと思うのです。

治山、治水事業というのは地味で長期的で重労働で何よりおそろしくお金がかかります。いわゆるハコモノ事業的なものより計算で求めることが出来ない価値観と町民の理解が必要です。放ったらかしの死に体となった自然はいけません。自然を守るのも人ならば、崩壊させるのも人ということです。

さて今回は災害のことです。断続的な降雨が、時間あたり 100 ミリを越える雨量と重なり、山林の保水能力を上回って土砂崩れをおこし、土石流となって河川の氾濫を招き流域の田畑、あるいは道路、橋を破壊し、下流の市街地を死亡させ壊滅状態に陥れる共に尊い人命を奪い、甚大な経済的損失を与えた。図式的に言えばこうなります。

では河川の整備が完璧であったなら今回のような災害はおこらなかったのでしょうか。答えはノーであります。今回の水害は全て想定外だと言えます。お年寄りの方が、80 何年生きてきたがこんな水害は見たことがない、と話しておられました。確かに町政の防災対策が万全であったとは言えないにしても、過去の雨量、水量、地形とかいろいろなデータを元に防災工事を永年にわたって為政者たちはやってきたはずです。それらの人事を尽くした営為を越える程の自然の猛威を誰が止めることが出来ましょう。行政の怠慢や責任者をやり玉にあげることは簡単なことです。でも問題の解決にはなりません。これから何十年かかろうとも、私たちがこの豊かな自然と共生していくためにも、ただ行政任せにするのでなく、自分の町は自分たちで守るのだという成熟した『市民』意識をもつ必要があります。特に具体策をもっているわけではありませんが、徒手空拳のひとりの愛町者として、復興への努力は惜しみませんし、関係各位の労を多とするものです。

そして今回の災害の当事者のひとりとして、時間はかかっても地道に確実に復興を成し遂げてゆくことが真の責任であるように思うのです。子や孫に同じ思いをさせないためにも。

台風第９号災害及び今後の地域防災など
「意見交換会」

意見交換会の開催概要

日　程	地域づくり協議会	会　　場	参加者数
11 月 20 日(金)	石井	みどりの健康宿舎「ゆう･あい･いしい」	23
11 月 21 日(土)	海内	ふれあいの郷みうち若杉館	31
11 月 24 日(火)	長谷	長谷交流センター「ふれあい長谷」	27
11 月 30 日(月)	平福	平福地域福祉センター	13
12 月　1 日(火)	中安	中安ふれあいセンター	13
12 月　2 日(水)	三日月	三日月文化センター	15
12 月　3 日(木)	久崎	久崎地区センター	32
12 月　4 日(金)	上月	佐用町役場上月支所2階	38
12 月　5 日(土)	幕山	幕山地区センター	34
12 月　7 日(月)	三河	三河基幹集落センター	29
12 月　8 日(火)	江川	江川地区文化センター	22
12 月　9 日(水)	徳久	南光文化センター	14
12 月 15 日(火)	佐用	さよう文化情報センター	33
合　　計			324



意見交換会での様子(佐用地域)

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（佐用地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・山林の荒廃によって保水力が失われるため、山林の整備が必要である。雑木を植えるなど自然の山に返す必要があるのではないか。	①	**①生活基盤等の復旧・復興** ・保水力を高める森林の管理 ・遊水地の確保 ・不要な井堰の撤去 ・あらゆる災害に対応した整備 ・排水路の整備 ・低地箇所の冠水対策
・水田であった箇所に大型商業施設が建設されたことにより、川の遊水地であったところがなくなり、被害が拡大したのではないか。	①	
・防災行政無線があるが、外に出ていると聞くことができなかった。 ・停電でテレビ等の情報も入ず、町からも有益な情報は得られなかった。また、CATVやインターネットも、停電や役場のサーバーの水没で接続できなかった。	⑤⑥	
・今回の水害では、車で移動中の方が亡くなられた。川原町近辺が一番浸水しやすいため、豪雨時の通行止の基準を決めておく必要があるのではないか。	⑥	**②農林業等の産業の再生**
・お互いのコミュニティや普段の付き合いが大切であり、被災時には自分たちが判断して助け合うことで、人命の被害を防ぐことができる。	④	**③住宅対策** ・河川改修の早期情報提供
・雨量計などがあればそれを活用し、気象予測により災害への対応準備ができるのではないか。	⑤⑥	**④地域防災力の強化** ・普段からのコミュニティ活動 ・災害別の避難場所の検討
・水害対策を進めるために不要な井堰を無くしてはどうか。	①	
・災害対応でお金をかけるのであれば、あらゆる災害に対応した整備をしてほしい。	①	**⑤情報伝達手段、体制** ・防災行政無線の屋外対応 ・停電時の情報伝達 ・気象情報から災害予測 ・関係機関の連絡体制整備 ・集落と役場の連絡体制の整備
・河川改修で立ち退き対象となる家については、建替えてしまってからでは遅いので、早期に情報がほしい。	③	
・町内の排水路を大小にかかわらず確認して必要な箇所は改善してほしい。	①	
・商店街の復興のため、地元の人が地元商店街で買い物をしてもらえる「暮らしの応援券」のような取り組みを継続してほしい。	⑦	**⑥迅速・確実な避難** ・防災行政無線の屋外対応 ・停電時の情報伝達 ・通行規制のとり決め ・気象情報から災害予測 ・集落単位の避難場所の検討 ・関係機関との連絡体制の整備 ・集落と役場の連絡体制の整備 ・人家の避難場所としての活用 ・災害別の避難場所の検討
・新町、中町などは小学校にも役場にも遠いので、県の施設などを避難場所として活用できないか。	⑥	
・今回の水害対応では警察、鉄道、役場間の連絡が取れていなかった。町民が個別に連絡を取らなくてもよいようにしてほしい。	⑤⑥	
・各集落と役場で連絡を取れる体制を整えてほしい。	⑤⑥	
・JRのガード下がすぐ冠水する場所があるので、水中ポンプなどを整備してほしい。	①	**⑦地域活力の向上** ・商店街復興のためのさらなる取り組み
・人命第一と考えれば、家の２階に避難することも必要。最終的に避難は自己判断が重要である。	⑥	
・避難場所は台風や地震等、災害別で区分して指定しているのか。	④⑥	**⑧地域ケア**

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（長谷地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・河川改修にはこれまでの洪水の状況や川の流れをよく知っている地元に住んでいる者の声を聞いてもらいたい。 ・50年、100年に１回という災害が５年で再び起こった。安心が持てる河川改修をしてほしい。	①	**①生活基盤等の復旧・復興** ・安心が持てる河川改修 ・風倒木、流出土砂への対応 ・主要道路の通行確保（暗渠改良） ・河川の浚渫 ・保水力を高める森林の管理 ・堤防の点検・対策 ・砂防ダムの維持管理
・16年の災害で発生した風倒木や土砂や巨石が河川を阻害し氾濫した。 ・国道の下の暗渠が小さいため立木が引っかかると水があふれ、国道がすぐ通れなくなる。	①	
・河川の浚渫だけでも実施するなど、できるだけの対策を行うこと。 ・雨が降るたびに山の土砂が川に流れ込み、堆積してしまう。保水力を高めるための山の管理が必要である。	①	**②農林業等の産業の再生** ・生活再建、農業など産業活性化 ・耕作再開のための対応
・生活再建とともに農業などの産業活性化ができるのか不安なので対策を。 ・農業を再開するために必要な井堰周辺の土砂撤去をお願いしたい。	②	**③住宅対策**
・防災計画は、改善点をしっかり検討したうえで作成してほしい。 ・河川堤防の弱いところなどをよく調査して対策を行ってほしい。	①⑥	**④地域防災力の強化** ・高齢者、障がい者対応 ・地域の防災体制
・山に土がないため、保水力がなく土砂も流出してしまう。 ・既存砂防ダムは土砂で埋まっているため、さらなる対策を。	①	**⑤情報伝達手段、体制** ・雨量観測所増設とさらなる情報提供 ・停電時の情報伝達手段の整備 ・防災行政無線の屋外対応
・各地域での水位を検証するとともに、雨量観測地点を増やして地域の雨量情報を提供してほしい。詳細な情報収集、提供が災害を小さくする。	⑤	**⑥迅速・確実な避難** ・防災計画の充実 ・高齢者、障がい者対応 ・避難の仕方 ・地域の防災体制
・停電による電話不通で情報が入らなかったので対応してほしい。 ・防災行政無線は屋外で聞けない。 ・高齢者や障がい者の避難について考えるべき。	④⑤⑥	
・ボランティアの依頼には、地域内で優先順位をつけるべきでは。 ・ボランティアの依頼内容についても良く考える必要がある。	⑦	**⑦地域活力の向上** ・ボランティアの適切な配置と作業内容
・防災担当の役員を自治会に置いてはどうか。避難所、避難経路をよく吟味して体制をつくったら良いと思う。	④⑥	**⑧地域ケア**

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（平福地域）

意見交換会での意見	分類
・土砂災害危険区域の災害を未然に防ぐ対策をお願いしたい。	①
・防災無線で避難の放送を聞いたが、道路は冠水して避難できない状況であったため、自宅の2階に避難した。 ・災害当日、鍵がなかったため避難所が開設できず、個人の家に避難する人も多かった。 ・道の駅まで車で避難した人もいる。 ・平福では、過去に大水が出て何度も困った経験をしている。過去の教訓により２階へ逃げるなど早く対応できた。 ・防災行政無線で集落内放送ができない集落がある。	⑤⑥
・消防団員が、怪我した人や避難が困難な上流域の高齢者を避難させるなど、よく活躍してくれた。 ・集落の自主防災組織は作っていたが十分な活動ができなかった。	④
・歴史的景観を活かし、災害に強い町並みを整備してほしい。	⑦
・町の防災計画とは別に集落の防災計画はつくる必要がある。	④
・災害時には普段からのコミュニティが不可欠である。 ・一人暮らしのお年寄りの対応が必要。	④⑥
・個人で要請したがボランティアになかなか来てもらえなかった。 ・きていただいたボランティアはよく活動してくれた。	⑦
・河川改修、山の管理、防災のまちづくりについて、最大限の努力で実行してほしい。 ・町管理の河川など、小規模な河川改修をしてほしい。 ・護岸のかさ上げをお願いしたい。	①
・稲荷神社の鉄砲水などに対応するため砂防ダムの整備等をしてほしい。 ・既設の砂防ダムの土砂を撤去し、川も広げて河床も下げる改修をしてほしい。	①
・民家の上で、土砂崩壊の二次災害の発生が懸念される箇所があるので対応をしてほしい。	①
・産業の活性化を柱とし、再復興を進めてほしい。	⑦
・空き農地や休耕田を有効活用できるよう、考えてほしい。 ・耕作ができるような早期対応をしてほしい。	②
・街なかに更地が増えており、一戸建ての町営住宅を検討してほしい。	③
・庵川流域で農業施設が被災しているものの１／３は作付け可能であり、部分的に復旧ができるのであれば、農業の継続のためにも早期に対応をして欲しい。	②

課題の抽出
①生活基盤等の復旧・復興 ・土砂災害危険区域の対策 ・災害に強いまちづくり ・谷川、裏山の崩れ対策 ・河川堤防のかさ上げ ・鉄砲水対策 ・砂防ダムの土砂撤去 ・河川改修 ・二次災害の防止
②農林業等の産業の再生 ・空き農地、休耕田の有効利用 ・離農対策
③住宅対策 ・更地を有効利用して住宅に
④地域防災力の強化 ・消防団の重要性 ・自主防災組織の強化 ・集落で防災計画の作成 ・助け合いの精神のさらなる向上 ・要援護者対策
⑤情報伝達手段、体制 ・防災行政無線の整備 ・防災行政無線のさらなる活用
⑥迅速・確実な避難 ・身近で安全な場所への避難 ・早期避難所開設 ・過去の教訓を活かし各自で避難を判断 ・高齢者対応
⑦地域活力の向上 ・歴史的景観を活かす ・まちなみ景観形成建物の保存 ・ボランティアへの要請 ・ボランティアへの感謝 ・産業の活性化
⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（石井地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・谷川の崩れの対策は行わないのか。	①	①生活基盤等の復旧・復興 ・谷川、裏山の崩壊対策 ・生物に配慮した河川整備 ・携帯電話の不感地区の解消 ・停電時の情報伝達の整備 ・農地や井堰などの早期復旧 ・鹿などによる山林荒廃への対策
・建設業の林業参画、林業への雇用創出など、新政権の打ち出す新たな施策に合致する事業を盛り込むことも大切。	②	
・山の手入れが大切であり、作業道や林道の整備を行うことでコスト削減を図り、森林の整備推進につなげる。（木材チップによる発電などの新たな活路を見いだす）	②	
・国の特別天然記念物であるサンショウウオの生息地であり、地域のむらおこしの起爆剤であるため、河川改修には自然環境に配慮した河川改修をお願いしたい。	①⑦	②農林業等の産業の再生 ・林業施策の新たな展開
・携帯電話の不感地域がある。災害時の情報伝達手段の確保が重要である。	①⑤	③住宅対策
・電線が切れて家庭電話も不通となり、情報が入らなかった。	①⑤	④地域防災力の強化 ・孤立化対策 ・消防団への応援要請の連絡系統の徹底 ・近隣地域の情報把握による早期対応
・倒木により、孤立状態となった。	④⑥	
・消防団への応援要請について、役場と自治会との命令連絡体制について不具合が生じた。今後の情報共有化を図るなど対策を検討してほしい。	④	
・屋外に出ていると防災行政無線を聞くことができない。災害伝言ダイヤルのような情報提供が検討できないか。	⑤	⑤情報伝達手段、体制 ・携帯電話の不感地区の解消 ・停電時の情報伝達の整備 ・防災行政無線の屋外対応 ・河川水位の情報提供
・田んぼ、井堰、橋梁等の復旧は、いつになるのか情報提供してほしい。	①	
・避難所である体育館や公民館での備蓄が必要ではないか。	⑥	⑥迅速・確実な避難 ・孤立化対策 ・避難所の物資の備蓄
・裏山で土砂崩れの危険性あるので、対応してほしい。	①	
・鹿やイノシシが山の荒廃を助長している。	①	⑦地域活力の向上 ・オオサンショウウオ生息地を守る
・河川の水位が上がった場合の危険情報を知らせてほしい。	⑤	
・気象は西から変わってくるので、近隣地域の情報から予測した対応をすべきではないか。	④	⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（海内地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・放置された倒木が流れてきて危険であった。	①	**①生活基盤等の復旧・復興** ・倒木処理 ・河川改修 ・山林の管理育成の検討 ・保水力を高める森林の管理 ・鹿などによる山林荒廃への対策 ・自然環境に配慮した河川整備（ホタル・鮎） ・複数避難路の確保 ・谷川や裏山の崩壊対策 ・町道復旧の地元負担の軽減 ・流木対策 ・砂防ダムの維持管理
・災害時、地域に役場の職員を配置できないか。 ・停電によって固定電話が不通となり、家族と連絡がとれなかった。不感地区のため携帯電話が使用できるような整備が必要。 ・災害は地震を想定していたため、今後、地域づくり協議会で、水害の教訓を踏まえた災害対策マニュアルを作成することが必要。 ・独居老人、要介護者の避難について、地域で対応を考えることも必要。 ・地域においても災害の検証を行うことが大切。	④⑤⑥	
・河川の土砂撤去とともに、損壊した護岸の改修をしてほしい。 ・地域全体で山林を守り育てる方法を考えねばならない。 ・山の間伐ができておらず、日照不足により保水力を失って土砂が流出してしまうので早期に対策をお願いしたい。	①②	**②農林業等の産業の再生** ・山林の管理育成の検討 ・保水力を高める森林の管理 ・鹿などによる山林荒廃の対策
・鹿によって山林が荒廃している。また倒木した木々の撤去にも対策が必要である。 ・自治会で自主防災組織を立ち上げているが、防災研修をさらに充実する必要がある。 ・過去の災害を教訓に、地域において消防団活動による自主的な災害活動ができた。	①②④	**③住宅対策**
・孤立集落を発生させないため、行き止まりの集落には避難のため別ルートの道路を確保して欲しい。	⑥	**④地域防災力の強化** ・要援護者対策 ・水害に対応したマニュアルの作成 ・地域での検証 ・防災研修会の充実 ・地域での自主防災力の向上 ・避難所の物資の備蓄
・河川の護岸整備には自然環境に配慮すること。 （過去の護岸工事でホタルがいなくなった例がある。鮎を放流しており、それを子供が楽しみにしているので考慮して欲しい）	①⑦	
・家の裏山が崩れてきており、雨が降るたび心配なので対応して欲しい。 ・川沿いの土手の町道整備について、河川改修と併せて補修するなど地元負担を少なくするような検討をしてほしい。 ・田畑に流れ込んだ流木への対策をおこなってほしい。	①	
・海内の砂防堰堤は5年前の台風により土砂が満砂になっているので除去して欲しい。	①	**⑤情報伝達手段、体制** ・携帯電話の不感地区の解消
・避難所で停電が発生したが、発電機により灯りには不自由しなかった。 ・避難が数日に及ぶと毛布や非常用の食料が必要だ。炊き出しができるまでの１～２食の食料を避難所に設置してほしい。	④⑥	**⑥迅速・確実な避難** ・職員の現地配備 ・地震災害対策に加えて水害対策 ・要援護者対策 ・複数避難路の確保 ・避難所への発電機の配備 ・避難所の物資の配備
・ボランティアセンターの立ち上げにおいて、名古屋のボランティアセンターの人に助けてもらったおかげで円滑に運営ができた。 ・ボランティアセンターの早期立ち上げについて、マニュアル化するなど今後に活かしてほしい。	⑦	
		⑦地域活力の向上 ・自然環境に配慮した河川整備護岸（ホタル・鮎） ・鮎の放流イベント ・ボランティアセンターの早期設置 ・ボランティアセンター運営のマニュアル化
		⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（江川地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・災害時、自治会長をはじめ役員は各種対応で外にいることが多く、防災行政無線放送はほとんど聞けなかった。	⑤	**①生活基盤等の復旧・復興** ・谷川の改修 ・堆積土砂の撤去
・浸水する可能性があるにもかかわらず、役場の１階に災害対策本部が設置されることについて再検討すべき。	⑥	
・水害時、避難することが逆に危険であると感じた。	⑥	**②農林業等の産業の再生**
・今回は役員の一人が情報収集に努めた。携帯電話を使用できたのは大きかった。	⑤	**③住宅対策**
・企業では情報など災害時のバックアップ機能を有しており、過去の災害を教訓に佐用町でも対応しておくべきではなかったのか。	⑤	**④地域防災力の強化** ・自治会長との緊急連絡体制 ・普段からのコミュニティ活動 ・地域の防災力向上 ・要援護者対応 ・地域の防災計画見直し ・非常用電源の整備 ・緊急時の情報伝達体制の確立 ・危険箇所の把握・点検
・災害時における自治会長への連絡網を構築すべきではないか。	④⑥	
・災害時は臨機応変な対応が重要であり、いろいろな人に協力を求めることができるよう普段からのコミュニティや地域づくりが最も大切である。	④	
・災害時の集落内の防災システムはあったが、計画どおりに機能しなかった。普段から訓練などにより、運用できるよう準備しておくことが大切である。	④	**⑤情報伝達手段、体制** ・防災行政無線の屋外対応 ・携帯電話による情報収集 ・災害情報のバックアップ体制 ・緊急時の情報伝達体制の確立 ・緊急警報システムの整備 ・気象情報からの災害予測
・耳の聞こえにくい人、目が見えにくい人、一人で避難できない人など要援護者への対応は重要な課題である。	④⑥	
・地域での防災計画は、地域の状況に応じて今後見直していくが、町でも考え方を示してほしい。	④⑥	
・停電すると何も見えなくなり危険であった。せめて危険箇所だけでも構わないので、非常電源を整備してほしい。	④⑥	
・避難に関する連絡など、大事な連絡は役場から自治会長をはじめ必ず連絡が届くような体制を整えてほしい。	④⑤⑥	**⑥迅速・確実な避難** ・災害対策本部体制の見直し ・安全な避難場所の判断 ・自治会長との緊急連絡体制 ・要援護者対応 ・地域の防災計画見直し ・非常用電源の整備 ・緊急時の情報伝達体制の確立 ・危険箇所の把握・点検 ・緊急警報システムの整備 ・気象情報から災害予測
・町で危険箇所をしっかり確認すること。さらに、緊急警報システムなど色々な手段で地域に情報提供して安全を確保すべき。	④⑤⑥	
・町が管理する川も改修してほしい。 ・谷川では、放棄田の田んぼが河川に削られて土砂が流出している。二次災害を防ぐためにも堆積している土砂も撤去してほしい。	①	
・ゲリラ豪雨などの非常事態でも、気象状況から予測して災害対応できないか。	⑤⑥	
		⑦地域活力の向上
		⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（幕山地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・本郷集会所付近は、あのような状態になるとは想像していなかった。今回、水の集まる危険箇所と実感した。	④	**①生活基盤等の復旧・復興** ・ため池対策 ・復興より復旧を優先 ・残土処分地対策
・河川の危険性と併せ、本郷地区では、２箇所のため池破堤が一番の心配であった。 ・河川だけでなく、ため池の危険を知らせるセンサーやサイレンの設置を要望する。	①⑤	**②農林業等の産業の再生** ・鳥獣対策 ・遊休地や耕作放棄地の有効活用
・今回の水災害の教訓を踏まえて、危機管理の体制をしっかりと構築しておく必要がある。	⑥	**③住宅対策**
・今日、明日にでも災害が発生する可能性があるので、あらゆる状況を想定し、住民の安全を第一に考え、体制を整えて、私たちに安心感を与えて欲しい。	⑥	**④地域防災力の強化** ・危険箇所の把握 ・地域の意見を反映した防災計画 ・地域毎のハザードマップ作成 ・地域毎の防災マニュアル ・人家も避難所として活用 ・避難マニュアルの作成
・情報が伝わらなかった原因は、情報発信部分の本庁が被害を受けたためであり、他支所においてバックアップ体制をとるべきである。また、職員は支所や地域に分散すべきである。	⑤⑥	
・多くの人的被害を出したのは、防災計画が計画どおりに実行されなかったためであり、よく検証してほしい。改善方策には地域の意見を最大限有効活用してほしい。	④⑥	**⑤情報伝達手段、体制** ・危険センサーを設置 ・災害対策本部機能のバックアップ
・復興計画委員会のメンバーには、被災地域の代表を入れ、意見を反映して欲しい。	⑥	
・復興よりも復旧が優先されるべきである。農地作付のための復旧について納得できる方向性をまず示すべき。	①	**⑥迅速・確実な避難** ・危機管理体制の構築 ・安全、あんしんの体制づくり ・人員配置計画の見直し ・地域の意見を反映した防災計画 ・被災地域の意見反映 ・地域毎のハザードマップ作成 ・コミュニティ単位の職員配置 ・地域毎の防災マニュアル ・人家も避難所として活用 ・防災計画の運用
・各集落において、土砂災害などの危険区域が入った洪水ハザードマップを作成してほしい。	④⑥	
・コミュニティ単位で職員を配置することにより、細かな対応ができるのではないか。	⑥	
・町でマニュアルを作成し、隣保や班という単位で、地域防災のマニュアルをつくる。	④⑥	
・集落の中で避難する場所をあらかじめ決め、個人の家でも安全であれば避難場所とする。だれが誘導するかについても決めておく。	④⑥	**⑦地域活力の向上** ・復興情報の発信 ・ボランティアへの感謝
・鳥獣被害への対応を忘れずに検討してほしい。水害による鳥獣防護柵の破損は元に戻すだけではく、効率良い形で再編成してほしい。	②	
・遊休地、耕作放棄地の有効活用を考えてほしい。	②	**⑧地域ケア**
・大規模河川改修には300～400万㎥の土砂が出るので、残土処分地について検討が必要ではないか。	①	
・ボランティアに感謝するとともに復興の経過をホームページなどで知らせてゆくことも大事である。 ・ボランティアにメッセージを送り続け、佐用町への関心や、継続的な支援の心を持ち続けられるようにしてほしい。 ・ボランティアも交えての復興イベントの開催してはどうか。	⑦	

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（上月地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・力万地区は集落の避難場所が決まっていない。 ・子どもたちに水害時避難の方法を教えることが必要。	⑥	**①生活基盤等の復旧・復興** ・河川断面不足の解消 ・添架施設の設置位置の見直し ・水道施設の確保 ・井戸の活用 ・消防用水利に配慮した河川改修 ・ため池の管理 ・砂防ダムの土砂撤去 ・現地特性に合致した河川整備 ・河川内の堆積土砂撤去
・力万橋は桁下空間や河川断面が非常に狭いため、流木が引っかかり床上浸水となった。 ・自治会長としては状況を判断し、近隣に「外は危険だから家の中の高い所へ避難してくれ」と伝えた。	①④⑥	
・河川横断する水道管は、橋梁の上流側への添架が多いが、下流側に添架すべきだ。 ・水道管は、どこかで複数ープしてもらいたい。広域防災を考えると、県境を越えた給水も必要だ。 ・地域にコミュニティ施設（上月文化会館）を早期に復旧して欲しい。 ・井戸の場所を地域で把握して活用することも重要。	①④⑦	
・高齢者や経済的理由から住宅再建が困難な人がいる。	③	**②農林業等の産業の再生**
・水防計画の見直しが必要ではないか ・初期避難など帰宅困難者との連絡方法を、行政でも考えて欲しい。 ・川の濁流の色が普通の色ではなく、流木も多く絶対危険だと感じた。 ・川までの高さがあり過ぎて、消防車の吸管が河川から取れない所がある。 ・ため池の管理が必要である。	①④⑤⑥	**③住宅対策** ・住宅再建困難者への対応
・災害対策本部に職員を招集するだけでなく、近い職員を地元の支所に集めるべきではないか。 ・地域対策本部（支所）にも権限を与えるべきである。 ・地域で水位を知ることができる装置の設置が必要。	⑤⑥	**④地域防災力の強化** ・危険な状況を予測 ・井戸の活用
・以前に川の土砂撤去を申し入れたが実行されなかった。	①	**⑤情報伝達手段、体制** ・帰宅困難者の対応 ・河川水位
・砂防ダムの堆積状況を確認し、土砂の撤去をして欲しい。	①	**⑥迅速・確実な避難** ・集落の避難場所の検討 ・避難を想定した訓練 ・自宅２階への避難を誘導 ・水防計画の見直し ・帰宅困難者の対応 ・地元支所への職員配置、権限付与 ・地域の医療関係者との連携
・30年前に河川改修で拡幅しているが、維持管理に力を入れて頂きたい。 ・河川改修後も堆積土砂対策についても検討し以前のように溜まった土砂の骨材利用を考えてはどうか。	①⑦	
・河川の計画・設計は、機械的に流出係数をあてはめ机上で進めるのではなく、実際に現場の様子を見て進めてもらいたい。	①	
・罹災証明の家屋被害判定には、明確な基準があるのか。	⑧	**⑦地域活力の向上** ・地域コミュニティ施設の早期復旧 ・堆積土砂の有効活用
・地域の医療関係者と連携を密にしておくことが大切である。	⑥	**⑧地域ケア** ・罹災証明の判定基準

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（久崎地区）

意見交換会での意見	分類
・久崎では幸いにも人的被害がなかったものの消防団による避難誘導においても非常に危険な状態であった。	④⑥
・消防自動車は水位の上昇によりも役に立たない状態となった、ライフジャケットやボートが必要であった。	④⑥
・作業に出た軽トラックも流される状況であったため土のうは効果がなかった。排水機場ポンプ口取水口の異物除去には重機が必要。	④⑥
・5年前にも水害があったにもかかわらず、土嚢の準備や手配に問題があった。	④⑥
・水害時は真っ暗であったため、土嚢の準備など懐中電灯で照らすしかない地域があった一方で、水害直前に街路灯が整備され、避難に役立った地域があった。	⑥
・トランシーバーを消防団で配備していたことが大変役に立った。	④⑤
・水位情報など、インターネットはアクセスが集中してつながらなかった。	⑤
・前回の水害も踏まえ、治水対策としては千種川の拡幅しかない。	①
・安心を実感できなければ、家屋や生活が再建できない。まずは安全あんしんを実感できるようお願いしたい。	①⑥⑦
・農機具が流された人は農業をやめるということにならないよう早期の支援をお願いしたい。	②
・最後に判断するのは個人であり、誰にでもわかりやすく判断できる情報が必要である。	⑤
・CATVは有効であり、さらなる有効活用などを考えてほしい。	⑤
・手積みの土嚢では対応できないので、上郡町同様、業者に頼んで１トン土嚢を機械積みできるようにしてほしい。	④⑥
・被災者の自転車購入補助の対象は中学生だけでなく、高校生にも広げてほしい。	⑧
・罹災証明発行後、1年以内に家屋を建て替えしないと国の支援金がもらえないため、期限を延長してほしい。（すぐに建替えなどできない）	⑧
・年内にでも意見交換の場、地域の交流の場を設けてほしい。（不満がたまっている）	⑧
・国道373号の歩道整備は水害以前から要望しているので、お願いしたい。	①
・高度情報システムの光ケーブルを活用して、河川の水位などの情報を流してほしい。	⑤
・久崎小学校に設置しているスピーカー（サイレン）が音割れしているので、地区全体に聞こえない。もうひとつ増設してほしい。	⑤
・久崎は河川だけでなく、対岸の山の崩壊により佐用川がせき止められる可能性があるので対応をお願いしたい。（二次災害にならないうちに現場を見ておいてほしい）	①
・農災では小さな事業は補助対象とならず、個人対応となってしまう。その場合、早く業者に依頼する必要があるので、補助対象の可否を早く判断してほしい。	②
・地元では災害状況報告書を提出しているがその対応を早く実施して欲しい。	①②

課題の抽出
①生活基盤等の復旧・復興 ・千種川の拡幅 ・安全あんしんの実現 ・二次災害の防止 ・国道の歩道整備 ・災害箇所の早期対応
②農林業等の産業の再生 ・営農支援の早期対応 ・災害箇所の早期対応
③住宅対策
④地域防災力の強化 ・消防団による的確な避難誘導 ・ライフジャケット、ボート等の配備 ・水防用の重機の手配 ・土のうの準備・手配 ・トランシーバーの効果
⑤情報伝達手段、体制 ・トランシーバーの効果 ・インターネットはアクセスが集中 ・わかりやすい情報が必要 ・CATVの有効活用（河川水位など） ・屋外スピーカーの増設
⑥迅速・確実な避難 ・消防団による避難誘導 ・ライフジャケット、ボート等の配備 ・水防用の重機の手配 ・土のうの準備、手配 ・街路灯の効果 ・安全あんしんの実現
⑦地域活力の向上 ・安全あんしんの実現
⑧地域ケア ・自転車の購入補助対象の拡大 ・国の支援金の期間延長 ・地元との意見交換会

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（中安地区）

意見交換会での意見	分類
・高速道路の通行規制に関する連絡体制が不十分。	⑤
・夜は暗くて移動が困難であった。	⑥
・避難場所は各集落にて設置するのが良いのでは？	⑥
・災害の原因分析を様々な角度（外力規模、災害対応、避難行動）から行うこと	⑥
・自主防災組織を定めているものの役割分担が明確でない。 ・根本的に自主防災組織のあり方を見直すことも必要。	④⑥
・集落の年長者に意見を聞いて、地域の危険箇所などを認識することが重要	④⑥
・避難所や危険箇所を記したマップを作成しており、集落ごとに住民へ配布する予定。	④⑥
・長期的な視点から、昔の自然林（里山）に戻す運動を展開してほしい。	②
・防災行政無線は屋内にあるため、屋外に出ていると情報が入手できない。那手地区では屋外の放送が反響で聞き取れなかった。集会所に防災行政無線がなかった。	⑤
・防犯灯を密に設置してほしい。	⑥
・河川改修は治水面だけでなく親水面も考慮すべき。	①⑦
・志文川でも大規模な河川改修を検討してほしい。	①
・井堰については河川断面を考慮し、改修してほしい。	①
・堤防と同じ高さにある橋をもっと高くすべき。	①
・雨量と水位など防災に関する情報を明確にして伝えてほしい。	⑤
・倒木の処理が必要である。	①
・民地の堆積土砂撤去をお願いしたい。	①
・地震のための備えはできているが、水害への対応はできていない。	⑥
・河川の合流部について、合流角度を改善できないか？	①
・土のうと土は各集落に配布しておいて欲しい。	④⑥
・河川水位の上昇を知らせる回転灯を検討して欲しい。	⑤
・自治会長に消防分団の出動を依頼する権限がない。	⑥

課題の抽出
①生活基盤等の復旧・復興 ・環境に配慮した河川整備 ・志文川の河川改修 ・井堰の改修 ・橋梁の改修 ・倒木の処理 ・民地の堆積土砂撤去 ・河川の合流部の改良
②農林業等の産業の再生 ・昔の自然林（里山）に戻す運動
③住宅対策
④地域防災力の強化 ・自主防災組織の役割分担明確化 ・自主防災組織のあり方 ・地域防災計画の充実 ・地域に伝わる防災対策の活用 ・地域の防災マップの作成・配布 ・土のう袋の備蓄
⑤情報伝達手段、体制 ・高速道路など通行規制の情報連絡体制 ・防災行政無線の改善 ・防災行政無線の屋外対応 ・雨量や水位などの情報提供 ・河川の水位情報を回転灯により周知
⑥迅速・確実な避難 ・夜は暗くて移動が困難 ・避難場所は各集落にて設置 ・災害の原因分析 ・自主防災組織の役割分担の明確化 ・自主防災組織のあり方 ・地域に伝わる防災対策の活用 ・地域の防災マップの作成、配布 ・防犯灯を密に設置 ・水害にも対応した防災体制の整備 ・土のうの配布 ・消防団への出動要請権限
⑦地域活力の向上 ・環境に配慮した河川整備
⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（徳久地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・水害当日は、自治会長や消防団にうまく情報が伝達されなかった。今後は自治会長等に速やかに情報・連絡が行くようにしてほしい。	⑤	**①生活基盤等の復旧・復興** ・ため池対策 ・危険箇所の把握・点検・解消 ・安全あんしんの実現 ・大規模河川改修の実施 ・地域内排水路の整備 ・町道の通行不能箇所の解消
・高速道路などが通行止めとなり徳久駅前で渋滞が発生し、対応に苦慮した。	⑤	
・道路と川の間に街灯をつけると、境が良く分かる。避難路には街灯を整備してほしい。	⑥	
・東徳久ではため池も多く池が崩れると危険であったが、ため池に行くための管理道路がないため見に行けなかった。	①	**②農林業等の産業の再生**
・地域の危険な箇所は地元が一番良く知っている。いつもと違う水の出方をしていると気づくことができるのも地元である。地域における防災の重要性を痛感した。	④⑥	
・消防団が再編された場合、地域の消防体制について不安が残る。	④⑥	**③住宅対策** ・空き家の被災者住宅への活用
・安全を確保することは行政がすべき大きな課題であるため危険箇所を取り除いて欲しい。 ・安心は安全な状況のうえで、地域のつながりから心で感じるものである。	①④⑥⑦	
・水害も脅威であるが、地震により橋が崩落すると、地域が孤立する恐れがある。	⑥	**④地域防災力の強化** ・地域防災力の重要性 ・消防団再編の検討 ・危険箇所の把握・点検・解消 ・安全あんしんの実現 ・日頃の避難訓練の重要性
・1年に一度でも良いから自主的に避難訓練などを実施すべきである。	④⑥	
・アメダス雨量や雨雲の様子を携帯電話でも見ることができるので、町の災害対策本部でも情報を入手して対応してほしい。	⑤⑥	
・防災計画は水害だけでなく、地震も忘れず対応してほしい。	⑥	**⑤情報** ・迅速、確実な災害情報の伝達 ・高速道路通行規制の情報連絡体制 ・様々な手段による情報の入手
・大規模河川改修に平松地域が入っていないので対象に入れてほしい。	①	
・主要幹線道路の排水のため下水道を整備してほしい。	①	
・町道で通行不能のところがあるため、復旧してほしい。	①	
・地域に空き家が40～50戸程度あるが、被災者のための住宅活用を検討するべき。	③	**⑥安全あんしんに避難できる施設・体制の強化** ・避難支援の街灯設置 ・地域防災力の重要性 ・消防団再編の検討 ・危険箇所の把握・点検・解消 ・孤立化対策 ・安全あんしんの実現 ・日頃の避難訓練の重要性 ・様々な手段による情報の入手 ・総合的な防災計画
		⑦地域活力の向上 ・安全あんしんの実現
		⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（三河地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・上流域情報が分からず避難指示等に苦慮した。 ・携帯やメールで情報をもらいたい。	⑤⑥	**①生活基盤等の復旧・復興** ・大規模河川改修の実施 ・復旧工事の詳細な日程周知 ・堆積土砂等の除去 ・消防用の水利箇所の復旧 ・消防水利に配慮した河川改修
・地域防災として危険箇所の点検把握や災害時の行動について、定めているがうまく運用できなかった。	④⑥	
・防災意識を高めるために小学校と共同で講習会を実施する。	④	
・大規模河川改修を当地域でも実施してもらいたい。	①	**②農林業等の産業の再生** ・復旧工事の詳細な日程周知
・復旧工事の詳細な時期を提示して欲しい。復旧が見えないと活力が起きない。	①②⑦	**③住宅対策**
・千種川の支川は流木や土砂で埋まっている。早く除去してほしい。	①	**④地域防災力の強化** ・地域防災の的確な実施 ・小学校と共同での講習会 ・消防との連携 ・消防団の再編問題 ・危険箇所の把握 ・地域での防災マニュアルづくり、訓練
・5年前の台風で消防用水利の箇所が被災したままのため、早期に改修してほしい。	①	
・河川改修には、消防用水利として利用する箇所や川へ降りることができる施設を作ってほしい。	①	
・町から雨量や上流の河川情報、避難情報、道路通行止め情報などを提供してほしい。	⑤	
・集落で避難を判断するための情報提供をしてほしい。また、消防団へどこまでの範囲を依頼してよいのか教えてもらいたい。	④⑤⑥	**⑤情報** ・地域で避難指示を判断する情報が不足 ・携帯やメールによる情報提供 ・雨量や水位などの情報提供 ・避難判断のための情報提供 ・避難所での情報収集手段の整備 ・情報伝達方法の検討
・避難所にテレビなど情報を入手できるものがほしい。	⑤	
・災害時に職員を現地に配置してほしい。	⑥	
・消防団の再編について懸念しているので、住民の意見を聞いてほしい。	④	**⑥安全あんしんに避難できる施設・体制の強化** ・地域で避難指示を判断する情報が不足 ・避難判断のための情報提供 ・地域防災体制の強化 ・職員の現地配置 ・危険箇所の把握
・日頃から、集落内での危険箇所の点検や把握が必要である。	④⑥	
・集落に応じた防災マニュアルをつくり、これに沿った訓練をすることが大事である。 ・風水害だけでなく、すべての災害に対応できる体制をつくらないといけない。	④⑥	
		⑦地域活力の向上 ・早期の復旧
		⑧地域ケア

台風9号災害及び今後の地域防災など『意見交換会』で得られた課題整理表（三日月地区）

意見交換会での意見	分類	課題の抽出
・地域の中でどうすれば「人の命」を 安全に守っていけるかということを地域の中で考えていく必要がある。 ・日ごろの地域の中（隣近所）のコミュニティが大切である。	④	**①生活基盤等の復旧・復興** ・砂防ダムの維持管理
・地域の中で防災に対するある程度の知識を持つような指導者を教育していく。 ・今回の災害に会われた方が、経験を伝えることが大切。	④	**②農林業等の産業の再生**
・集落単位での防災対策があればいいと思う。	④	**③住宅対策**
・町のハザードマップを参考に危険箇所を歩き、地域のハザードマップを作成した。このことにより危険箇所を再認識することが出来た。	④	**④地域防災力の強化** ・地域主体の安全対策 ・日頃のコミュニティの重要性
・地域は地域で守っていく必要がある。	④	・防災指導者の育成 ・経験を伝える ・集落毎の防災対策 ・地域ハザードマップを作成 ・防災の知識向上 ・防災の知識、意識の向上 ・行政だけでは対応に限界がある ・消防団との連携 ・防災意識を高める ・地域毎の学習会、訓練の実施 ・浸水想定区域図の作成 ・防災について地域の中で考える ・わかりやすい防災マニュアル ・災害の風化防止
・町災害対策本部と、集落とのホットラインが必要である。	⑤⑥	
・水防指令など住民に周知すべき。水防指令1号2号がどういうものか解っていない方もおり、防災に対して意識を高める必要がある。	④⑥	
・行政のだけでは対応に限界があり、地元消防団との連携が大切。	④	
・河川改修とともに水位上昇を知らせる警報システムが必要。 ・地域で防災意識を高めて守っていこうということを意識させることが重要である。	④⑤	
・地域づくり協議会単位で、行政と一体となって防災の学習会や、訓練を定期的に重ねていく必要がある。	④	
・河川改修とともに警報システムを導入するなどして被災集落の不安を解消するべき。	⑤	
・８月豪雨の雨量が各地域で降った場合のシュミレーション（浸水想定区域）をして欲しい。	④⑤	**⑤情報伝達手段、体制** ・町と集落間のホットライン ・水位上昇を知らせる警報システム ・集落の中の情報伝達システム ・浸水想定区域図の作成 ・危険水位の明示
・地域における防災の知識向上が必要。	④	
・各河川ごとに、危険となる水位の目安の明示が必要。	⑤	
・1人1人が真剣に考えて地域の中で考え、自主防災を行っていくため、行政はこれをフォローするための施策（専門家による研修会や防災意識の向上）の展開をするべきである。	④⑥	
・自分の命を守るためには、自ら防災知識を高めるべきである。	④⑥	**⑥迅速・確実な避難** ・町と集落間のホットライン ・防災意識を高める ・行政は地域の防災をフォロー ・わかりやすい防災マニュアル
・集落の中で情報伝達をするようなシステムを作りださないといけない。	⑤	
・わかりやすいマニュアルを是非作ってほしい。	④⑥	
・砂防ダムに溜まった土砂を撤去して欲しい。	①	**⑦地域活力の向上** ・ボランティアを育成するシステム
・他の被災地を支援できるようボランティアを育成する研修も必要である。	⑦	
・毎年、慰霊祭を執り行ない、災害が風化しないよう努めるべき。	④	**⑧地域ケア**

パブリックコメントの実施

佐用町災害復興計画（案）に対するパブリックコメント結果

１．パブリックコメントの実施状況

（１）意見募集期間

平成 22 年 3 月 10 日(水)～平成 22 年 3 月 17 日（水）

（２）意見の応募者数と件数

応募者数： 8 人 ［男女内訳］：男 8 人、女 0 人

意見件数：16 件

（３）提出方法の内訳

提出方法	Ｅメール	持ち込み	合計
人　数	２人	６人	８人

２．意見の概要と町の考え方

資料頁	項目	意見等の概要	件数	意見に対する町の考え方
P１	趣旨	【再度災害防止】 「同じような被害が起こらないよう安全であんしんなまちを創っていく・・」とあります。また、2-1 気象条件、2-2 被害状況などを見ると、このような気象状況になってもこのような被害を受けない対策を行うのだと考えますが、それだけの決意はありますか。	1	再度災害の防止に向け、県と町などが協力して取り組んでまいります。
P13	避難	【避難時の隣近所への声掛け・助け合い】 災害時の弱者避難に備え、自治会長が集落ごとに災害時要援護者及び外国人居住者を調査しておくことがいいと思います。 【防災訓練の実施】 防災訓練はあったほうが良い（昼間の火災予防訓練も）	1	災害時要援護者の避難については、災害時要援護者支援計画策定に向け、関係機関で取り組みを進めております。 防災訓練については、学校が地域とともに行う訓練を支援します。また、県では防災力向上を図るため「ひょうご防災特別推進員」を派遣する制度を設けており、同制度も活用して地域の防災力を高めます。
P20	河川改修	【河川改修】 千種川の河川改修により安全あんしんが確保されるまちづくりをお願いしたい。	1	平成２１年台風第９号災害の復旧・復興計画（兵庫県）に基づき、再度災害の防止を図ります。
		【河川改修】 今後、各事業の詳細計画が作成されると思いますが、その詳細計画についても公開し、町民の意見を反映させる場面を設けていただきたい。 特に河川計画については、少なくとも浸水被害を受けられた全世帯に説明し承認の署名をもらっていただきたい。河川改修の事業主体は、ほとんどが県です。町民に計画を説明せず、町民の合意をとらないまま強引に工事を進めることがないようにしてください。	1	県の担当部署にご意見をお伝えいたします。
		【河川改修】 「・・生態系や自然環境に配慮し、親水性の高い河川整備」とありますが、これは完全に河川改修事業と相反する内容です。 実現されれば素晴らしいことですが、本当に実施されるのでしょうか？	1	

資料頁	項目	意見等の概要	件数	意見に対する町の考え方
P20	河川改修	【河川改修】 主な事業の緊急河道対策、堤防補強対策の事業概要に、引堤、川床掘削、護岸補強など並びますが、これで洪水被害がなくなるとはイメージできません。引堤をしないところは、３ｍ以上の掘削を行うのでしょうか。	1	県の担当部署にご意見をお伝えいたします。
P20	治水治山	【治水、治山の基盤整備】 ・人家のない所を含む山間の町道及び谷川の復旧 ・山の崩壊箇所の土砂撤去、流木撤去 （平成16年当時からの箇所が拡大している所も多くあります。） ・集落内の山からの水路整備 ・砂防堰堤に堆積している土砂流木の除去 詳細の計画段階では、是非組み入れていただきたい。	1	ご要望の事項については、各事業の実施計画において事業可能な箇所は計画に位置づけたうえで整備に取り組んでまいります。
P20 ～ 21	治山	【治山】 間伐材の件、風倒木の件、手入れの遅れによる山林荒廃を取り上げて、今後の施策を行うようにとれる。 従前に設置している砂防ダムの土砂撤去については何の記載もない。設置しても後のメンテナンスをしない土砂流出防止のダムはかえって災害を引き起こすので対応すべきである。	1	県の担当部署にご意見をお伝えいたします。
P21	ため池	【ため池の土砂取り】 櫛田奥村の横谷池の土砂取りをお願いしたい。	1	平成23年度までに国庫補助事業で取り組みます。
P26	情報伝達	【情報伝達】 さようチャンネルを利用する周知方法は間違っている。屋外の放送（防災無線）を充実するべきである。 災害放送（火災、水防指令〇号、避難指示など）を24時間誰がどのように放送するかを決めることが大切である。	1	防災情報については、多様な伝達手段により、情報伝達を行えるよう検討しているところです。
P27	避難	【避難所】 奥海鴨尾は上～下に谷が多く、水害や土石流が多く発生するため避難場所に移動することが出来ない。 台風、地震、水害の一時避難場所、基地が欲しい。	1	避難所については、現地の状況や災害の種類に応じた設置が必要であり、「佐用町地域防災計画」を見直す中で検討を行います。
P31	姫新線	【姫新線利用向上】 姫新線の利用向上については、地元住民に依頼することしかないような書き方がされているように取れる。 他町、他市など外から来町してもらえることを考えることが地域の活性化につながるのでは？ 姫新線を利用して来町されたかたに証明書を発行し、地域特産品やおみやげの購入時に割引サービスが受けられるなど町外者の利用向上につながる取り組みも必要である。	1	姫新線の利用促進については、沿線の各自治体がその重要性を十分に認識し、共同で利用促進の取り組みを進めています。 町では車から姫新線へ通勤手段の転換を推進するとともに、企業にも姫新線利用を呼びかけて、賛同頂いた企業への表彰制度を設けることとしており、今後、さらなる取り組みを展開していきます。

参考資料（パブリックコメントの実施）

資料頁	項目	意見等の概要	件数	意見に対する町の考え方
P33	ボランティア	【ボランティアの交流拠点づくり】 佐用町の地元の方々と外部のボランティアの方々が末永く交流していけるような「ボランティアの交流拠点づくり」を提案します。 佐用まちおこしNPO（仮称）のようなものを立ち上げ、NPOスタッフやボランティアが中心となって運営を行い、コミュニティカフェ、特産品販売、足湯コーナーなどNPOスタッフとボランティアが気軽に交流できる場として整備し、交流によるまちの活性化を推進する。 防災や環境問題、産業や観光など生活に密着した事柄を、行政などと一緒に考えながら行動していければと考えています。	1	ボランティアとの交流により活力向上を図るイベントとして、「感謝の集い実施事業」を計画しています。 また、地域コミュニティの形成を図り、ぼうさい朝市の開催、ボランティア等との交流による活力向上などを目的とした防災情報コミュニティ設置事業を推進します。
		【ボランティアの育成・交流】 いつ誰が災害に遭うか分からないので、災害に遭わなかった者がいつでも救援ボランティアに駆けつけて動ける体制をとっておくことが良い。	1	災害時にボランティア活動への参加を迅速に促進できるよう、災害時ボランティア養成講座を実施し、ボランティアの育成を図ります。 また、ボランティアとの交流により活力向上を図るイベントとして「感謝の集い実施事業」を計画しています。
	その他	・復興計画が、まとまり過ぎて非常にきれいだ。 ・どの項目も、もっと多様な意見が出たと思うが、これらをまとめ過ぎているのできれいにしか写らない。 ・多くの人に読んでもらうことになると、やむを得ないかもしれないが、上手な言葉でなく、生の声をのせて欲しかった。	1	復興計画の資料編として、みなさんからいただいた貴重なご意見を掲載します。
		・高速道路の通行止めにより強制的に高速道路から降ろされ、はん濫している危険な川沿いの道路を走行しなくてはならない自動車がたくさんあった。そのため、危険にさらされた方々が、地域に一時避難された。大雨などで高速道路を通行止めにしてしまう道路公団、行政のやり方は変えるべき。 ・高速道は災害時に開放し、パーキングエリアなどに駐車させるべき。	1	佐用町台風第９号災害検証委員会の中で検証項目として取り上げ、検証を進めています。